Pioneer

AVマルチチャンネルアンプ

VSX-S300

各部の名称
接続
基本設定
再生
応用設定
困ったとき
付録

インターネットによるお客様登録のお願い

http://pioneer.jp/support/

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
弊社では、お買い上げいただいたお客様に「お客様登録」をお願いしています。上記アドレスからご登録いただくと、ご使用の製品についての重要なお知らせなどをお届けいたします。
なお、上記アドレスは、困ったときのよくある質問や各種お問い合わせ先の案内、カタログや取扱説明書の閲覧など、お客様のお役に立てるサービスの提供を目的としたページです。

取扱説明書

このたびは、パイオニア製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機の機能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」（→ 30 ページ）は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

もくじ

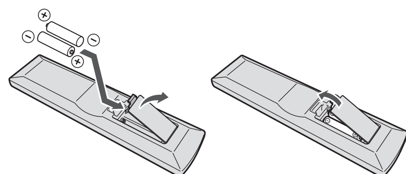
はじめに

付属品を確認する

以下の付属品があることを確認してください。

- セットアップ用マイク
- リモコン
- 単4形乾電池（動作確認用）×2
- AMループアンテナ
- FMアンテナ
- 電源コード
- 保証書
- 取扱説明書（本書）

リモコンに電池を入れる



重要

電池を誤って使用すると液漏れや破裂の危険があります。次の注意を守ってください。

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 電池を直射日光の強いところや、炎天下の車内・ストーブの前などの高温の場所で使用・放置しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂、発火の原因になります。また、電池の性能や寿命が低下することがあります。

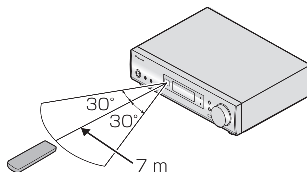
リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作できない場合があります。

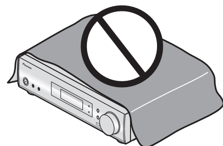
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。

赤外線を出す機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコンを使用すると、本機が誤動作することがあります。逆に本機のリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。



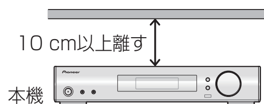
設置について

放熱のため、本機の上に物を置いたり、布やシートなどをかぶせた状態でのご使用は絶対におやめください。異常発熱により故障の原因となる場合があります。



注意

本機を設置する場合には、壁から5 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して設置してください。ラックなどに入れるときには、本機の天面から10 cm以上、背面から5 cm以上、側面から5 cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



本機の設定の流れ

本機は多くの機能や端子を装備した本格的なAVアンプですが、以下の手順で設定をするだけで簡単にホームシアターを楽しむことができます。

手順の色は、以下の意味を表しています。

必ず行う手順

必要に応じて行う手順



1 スピーカーの配置/使用パターンを選ぶ（→6ページ）

- 5.1chサラウンドシステム
- 6.1chサラウンド（サラウンドバック）システム
- 7.1chサラウンド（サラウンドバック）システム
- 7.1chサラウンド（フロントハイト）システム

2 スピーカーを接続する（→6ページ）

3 機器を接続する（→8ページ）

- 再生機器とテレビの接続について（→8ページ）
- テレビやブルーレイディスクプレーヤーを接続する（→9ページ）
- 電源コードをつなぐ（→11ページ）

4 電源を入れる

5 スピーカーシステムの設定（→20ページ）
（他の部屋にスピーカー Bを設置する場合）

プリアウト端子の設定（→22ページ）
（サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続する場合）

オーディオリターンチャンネルの設定（→23ページ）
（HDMIで接続したテレビがオーディオリターンチャンネルに対応している場合）

6 スピーカーの自動設定を行う（→12ページ）

7 本機から音を出す（→13ページ）

- リスニングモードを選ぶ（→16ページ）

8 さまざまなサウンドの設定をする

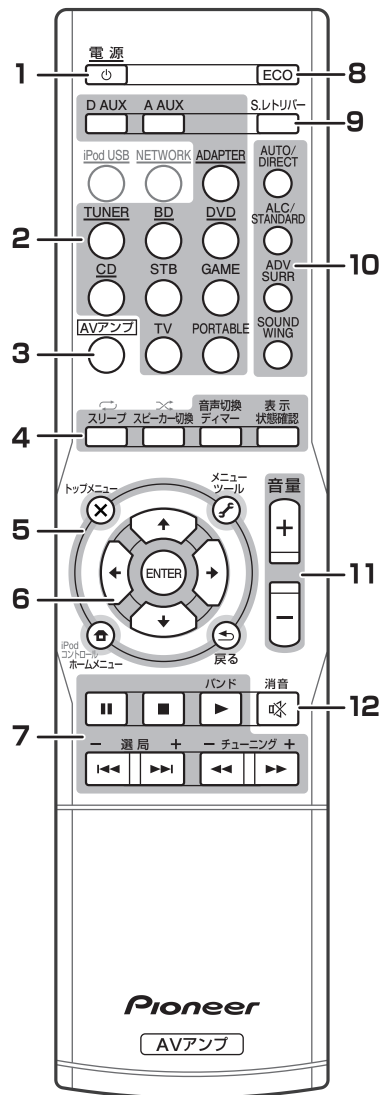
- 最適な設定でサウンド再生する（→17ページ）（サウンドレトリバー機能、UP MIX機能）
- オーディオ調整機能を使う（→18ページ）

ホームメニューで本機の設定を行う（→20ページ）

- 聴感によるスピーカーの設定（→20ページ）
- アナログビデオ入力端子の設定（→22ページ）
- 自動電源オフの設定（→22ページ）
- HDMIによるコントロール機能（→23ページ）

各部の名称

リモコン



以下のボタン（機能）は本機では使用しません。

- iPod USB、NETWORK、🔁、🔀、iPod CTRL

1　電源⏻

本機の電源をオン/オフ（スタンバイ）にします。

2　入力切り換えボタン

本機の入力を切り換えます。（→13ページ）

アンダーラインが付いている入力を選ぶと、リモコンでその入力に対応したパイオニア製の他機器を操作できるようになります。

- 他機器操作のリモコンコードを変更することはできません。

3　AVアンプ

リモコンを本機の操作モードに切り換えます。また、ホームメニュー設定などを行うときに使用します。

4　アンプ操作ボタン

以下のアンプ操作はAVアンプボタンを押してから行います。

スリープ

スリープタイマーを設定します。30分、60分、90分の中から設定した時間が経過すると、本機の電源がオフ（スタンバイ）になります。設定後に**スリープ**ボタンを押すと、タイマーの経過時間を確認できます。

スピーカー切換

音声を出力するスピーカー端子を切り換えます（→8ページ）。

ディマー

フロントパネル表示部の明るさを切り換えます。

状態確認

本機の表示を切り換えます。（選択している入力によっては、プリアウト設定やUP MIX設定の内容を確認できます。）

以下のチューナー操作はTUNERボタンを押してから行います。

表示

記憶させた放送局の名前を表示します（→15ページ）。

以下のプレーヤー操作はBDやDVDボタンを押してから行います。

音声切換

ブルーレイディスクやDVDの音声を切り換えます。

表示

ブルーレイディスクやDVDのディスク情報を表示します。

5　アンプ/他機器操作・設定ボタン

以下のアンプ操作はAVアンプボタンを押してから行います。

ツール

本機のサラウンド効果の設定などを行います（→18ページ）。

ホームメニュー

ホームメニュー画面を表示して本機の各種設定を行います。

戻る

本機のホームメニュー設定や各種メニュー画面で1つ前の画面に戻ります。

以下のチューナー操作はTUNERボタンを押してから行います。

ツール

記憶させた放送局を呼び出したり、名前を変更する時に使用します（→15ページ）。

以下のプレーヤー操作はBDやDVDボタンを押してから行います。

トップメニュー

ブルーレイディスクなどのトップメニューを表示します。

メニュー

DVDなどのメニュー画面を表示します。

ホームメニュー

ホームメニュー画面を表示します。

戻る

メニュー画面で1つ前の画面に戻ります。

6　⬆⬇⬅➡/ENTER

本機のホームメニュー設定などの操作に使用します。また、⬆⬇はラジオの放送局を合わせるために、⬅➡は記憶した放送局の呼び出しに使用します。

7　他機器操作ボタン

►、■などのボタン操作は入力切り換えボタンで操作する機器を選択してから行います。

以下のチューナー操作はTUNERボタンを押してから行います。

バンド

AMとFM STEREO（ステレオ）、FM MONO（モノラル）を切り換えます（→15ページ）。

選局 +/–

記憶した放送局の呼び出しに使用します。

チューニング +/–

ラジオの放送局を合わせるために使用します。

8　ECO

本機をエコモードに切り換えます（→16ページ）。

9　S.レトリバー

サウンドレトリバー機能のオン/オフを切り換えます（→17ページ）。

10 リスニングモードボタン

AUTO/DIRECT

オートサラウンド再生やダイレクト再生に切り換えます（→16ページ）。

ALC/STANDARD

サラウンド再生やオートレベルコントロールモードに切り換えます（→16ページ）。

ADV SURR

アドバンスドサラウンド再生やフロントサラウンド・アドバンス再生に切り換えます（→16ページ）。

SOUND WING

サウンドウイングモードに切り換えます（→16ページ）。

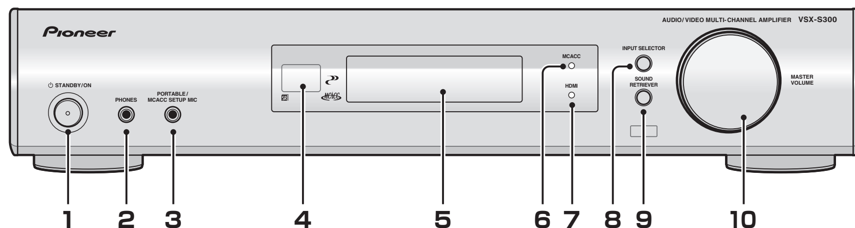
11 音量+/–

本機の音量を調節します（→13ページ）。

12 消音

消音します。もう一度押すと解除されます。

フロントパネル



1 ⏻ STANDBY/ONボタン
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)にします。

2 PHONES端子
ヘッドホンを接続します(→13ページ)。

3 PORTABLE/MCACC SETUP MIC端子
携帯音楽プレーヤーなどを接続して、本機で音楽を楽しめます。

また、スピーカーの自動設定を行うときに、付属のセットアップ用マイクを接続します(→12ページ)。

4 リモコン信号受光部
「リモコンの操作範囲」をご覧ください(→3ページ)。

5 表示部
「ディスプレイ」をご覧ください(→右記)。

6 MCACCインジケーター
アコースティックキャリブレーションEQをオンにしているときに点灯します(→18ページ)。

7 HDMIインジケーター
HDMI対応機器と接続処理中に点滅し、接続が完了すると点灯します。(→11ページ)

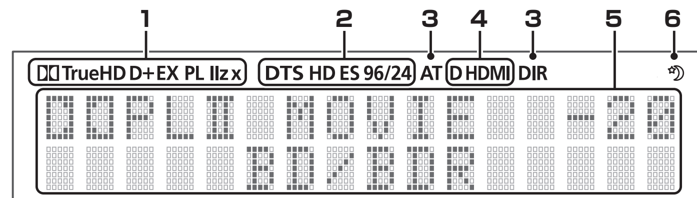
8 INPUT SELECTORボタン
本機の入力を切り換えます(→13ページ)。

9 SOUND RETRIEVERボタン
サウンドレトリバー機能のオン/オフを切り換えます(→17ページ)。

10 MASTER VOLUMEダイヤル
音量を調節します。

⚠ 注意
製品の仕様により、本体部やリモコン(付属の場合)のスイッチを操作することで表示部がすべて消えた状態となり、電源プラグをコンセントから抜いた状態と変わらなく見える場合がありますが、電源の供給は停止していません。製品を電源から完全に遮断するためには、電源プラグ(遮断装置)をコンセントから抜く必要があります。製品はコンセントの近くで、電源プラグ(遮断装置)に容易に手が届くように設置し、旅行などで長期間ご使用にならないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

ディスプレイ



1 ドルビーデジタルインジケーター

DD D
ドルビーデジタル信号が入力されているときに点灯します。

DD TrueHD
ドルビー TrueHD信号が入力されているときに点灯します。

DD D+
ドルビーデジタルプラス信号が入力されているときに点灯します。

EX
ドルビーデジタルサラウンドEXデコードを行っているときに点灯します。

PLII(x/z)
ドルビープロロジックII、ドルビープロロジックIIxまたはドルビープロロジックIIzデコードを行っているときに点灯します。

2 DTSインジケーター

DTS
DTS信号が入力されているときに点灯します。

HD
DTS-EXPRESSまたはDTS-HD信号が入力されているときに点灯します。

ES
DTS-ESデコードを行っているときに点灯します。

96/24
DTS 96/24信号が入力されているときに点灯します。

3 リスニングモードインジケーター

AT
オートサラウンドモード選択時に点灯します(→16ページ)。

DIR
リスニングモードでDIRECTまたはPURE DIRECTモードが選択されているときに点灯します(→16ページ)。

4 音声信号インジケーター

D
デジタル音声信号を選択しているときに点灯します。選んだ入力にデジタル信号が入力されていないときは点滅します。

HDMI
HDMI信号を選択しているときに点灯します。選んだ入力にHDMI信号が入力されていないときは点滅します。

5 キャラクター表示部
通常は上段にリスニングモードと音量、下段に入力が表示されますが、操作時や各種設定時は異なります。

6 スリープタイマーインジケーター
スリープタイマー設定時に点灯します(→4ページ)。

スピーカーの接続

スピーカーの配置／使用パターンを選ぶ

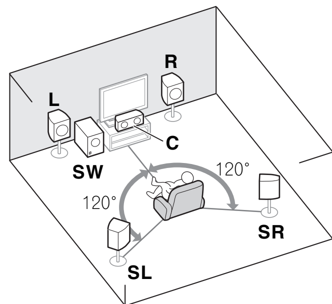
フロント左右(L/R)、センター(C)、サラウンド左右(SL/SR)の各スピーカーと、アンプ内蔵サブウーファーを本機に接続して、臨場感あふれる5.1chのサラウンドサウンドが楽しめます。

また、お手持ちのアンプを使用して、サラウンドバック左右(SBL/SBR)またはフロントハイト左右(FHL/FHR)のスピーカーを接続して7.1chサラウンドシステムにシステムアップできます。

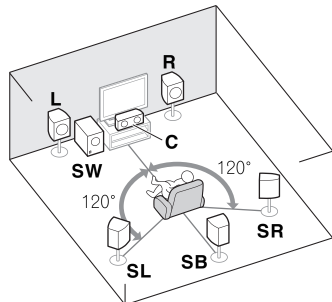
- サラウンドバックスピーカーは、1本(SB)だけでも6.1chサラウンドで楽しめます。

最適なサラウンドサウンドで楽しむために、スピーカーは下図のように設置してください。

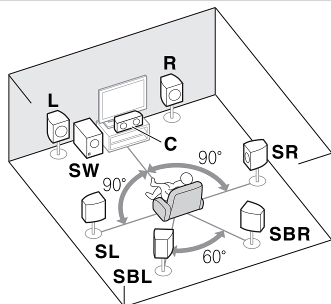
5.1chサラウンドシステム



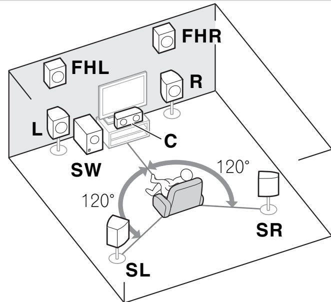
6.1chサラウンド(サラウンドバック)システム*



7.1chサラウンド(サラウンドバック)システム*



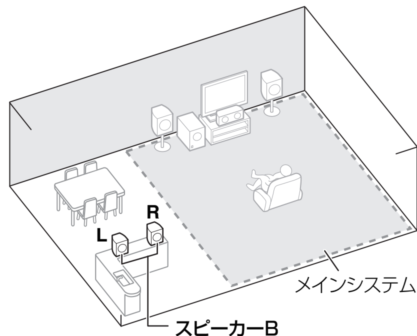
7.1chサラウンド(フロントハイト)システム*



＊サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続するには、別途外部アンプが必要です。詳しくは、7ページをご覧ください。

上記のサラウンドシステム(メインシステム)のほかに、スピーカーBシステムを接続して、メインシステムと同じ音声をステレオで楽しむことができます。

- **メインシステムでサラウンドスピーカーを接続している場合は、スピーカーBを接続することはできません。**
  スピーカーBを使用しているときは、メインシステムではフロント/センタースピーカーおよびサブウーファーのみ音が出ます。
- スピーカーBではサブウーファーを接続できませんので、フルレンジスピーカーを使用してください。



スピーカー配置について

スピーカー配置で音質に影響のあるポイントについて、以下の点を参考にしてください。

- フロント左右スピーカーは、それぞれテレビから等距離になるように配置してください。
- ブラウン管テレビの近くにスピーカーを配置する場合は、防磁型のスピーカーを使用するか、スピーカーをテレビから離してください。
- センタースピーカーは、テレビの音をより自然に再生するために、テレビの上か下に配置してください。また、視聴位置からセンタースピーカーの距離は、フロントスピーカーの距離よりも近くならないようにしてください。
- サラウンドスピーカーは、視聴位置での耳の高さから60 cm～90 cm上方に、少し下向きに配置してください。また、左右のスピーカーが向き合わないように設置してください。
- 7.1チャンネル(サラウンドバック)システムのスピーカー配置例で、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横に配置できないときは、本機のUP MIX機能をOFFにしてサラウンドサウンドを補正します。詳しくは「UP MIX機能を使う」(→17ページ)をご覧ください。
- フロントハイトスピーカーは、フロントスピーカーの真上1 m以上の高さに設置してください。

⚠ 注意

センタースピーカーをテレビの上に置くときは必ず適切な方法で固定してください。地震などの振動によりスピーカーが落下して人がけがをしたり、物を破損する原因となります。

重要

- S-HV500-LRやS-HV600Bなどのスピーカーは設置方法が指定されていることがあります。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書ご覧ください。
- **サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続する場合は、別途外部アンプが必要です。**外部アンプを本機のPRE OUT SURR BACK/FRONT HEIGHT端子に接続し、外部アンプにサラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続します(→7ページ)。
  また、プリアウト端子の設定を、サラウンドバックスピーカーを接続した場合は「SURR. BACK」に、フロントハイトスピーカーを接続した場合は「HEIGHT」にしてください(サラウンドバックまたはフロントハイトのいずれのスピーカーも接続しない場合は、プリアウト端子の設定は関係しません)(→22ページ)。

スピーカーを接続する

本機は最低2本のスピーカー(図のフロントスピーカー)が接続されていれば音を再生できますが、左記のようにセンター/サラウンドスピーカーとサブウーファーを接続して5.1 chサラウンドシステムにすることをお勧めします。なお、サブウーファーを使用しないときは、フロントスピーカーの設定を「LARGE」に設定してください(「スピーカーの設定を行う」(→20ページ)をご覧ください)。

スピーカー端子について、視聴位置の右側にあるスピーカーはR端子に、左側にあるスピーカーはL端子につなぎます。接続するときは、スピーカーの極性(＋/－)と本機の極性(＋/－)を必ず合わせてください。

スピーカーB端子に2本のスピーカーを接続して、他の部屋でステレオ音声を聞くこともできます。スピーカー端子の切り換えについては、8ページをご覧ください。

- スピーカーは、インピーダンスが4 Ω～16 Ωのスピーカーをご使用ください。

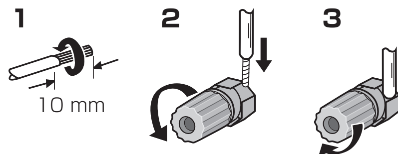
すべての接続が終わってから、最後に電源コードをコンセントに差し込んでください。

スピーカーの接続

スピーカーコードを接続する

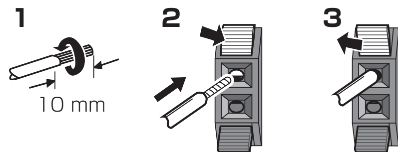
スピーカー A端子

1. スピーカーコードの先端をねじる。
2. スピーカー端子を緩め、スピーカーコードを差し込む。
3. スピーカー端子をしめる。



スピーカー B端子

1. スピーカーコードの先端をねじる。
2. スピーカー端子のツメを開いて、スピーカーコードを確実に差し込む。
3. ツメを閉じて固定する。



スピーカー端子について

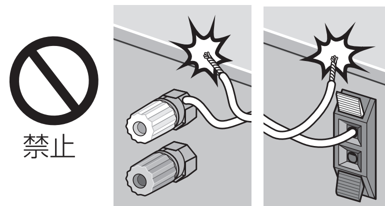
スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじり、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がリアパネルに接触したり、芯線どうしが接触すると保護回路が働いて電源が切れる(スタンバイ状態になる)ことがあります。

接続には市販のスピーカーコードとオーディオコードをご使用ください。音質をよくするためには、より高品質なスピーカーコードをご使用ください。

⚠ 注意

スピーカー端子には非常に高い電圧が出力されます。感電の危険を避けるため、スピーカーを接続する前に必ず電源コードを抜いてください。

■ スピーカーケーブルの芯線を本体に接触させない



スピーカーケーブルの芯線が本体金属部に触れると、スピーカーを破損し、発煙･発火になる恐れがあります。

スピーカーケーブルは確実に差し込み、簡単に抜けないことを確認してください。

サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続する

本機のPRE OUT SURR BACK/FRONT HEIGHT端子にアンプを接続し、そのアンプとサラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続することで、7.1 ch再生を行うことができます。

- サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続した場合は、プリアウト端子の設定が必要です(→22ページ)。
- サラウンドバックスピーカーを1本だけ接続するときは、サラウンドバックスピーカーをアンプのL側のスピーカー端子に接続し、本機のL(Single) 端子とアンプのL端子を接続します。

フロント右スピーカー R
センタースピーカー C
フロント左スピーカー L
パッシブサブウーファー (S-SLW500) SW
SPEAKERS
CENTER
SUB WOOFER
SURROUND / B
PRE OUT
SUBWOOFER
LINE LEVEL INPUT
アンプ内蔵サブウーファー SW
サラウンドまたはスピーカーシステムB
SRまたはスピーカーB右
SLまたはスピーカーB左
SBR/FHR
SBL/FHL
サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカー
白
赤
右 左
アナログ音声入力
SPEAKER R
SPEAKER L
サラウンドバックまたはフロントハイトチャンネル用アンプ

重要

- SPEAKERS SUBWOOFER端子は、パイオニア製パッシブサブウーファーS-SLW500接続用の専用端子です。その他のサブウーファーを接続する場合は、アンプ内蔵タイプを使用し、PREOUT SUBWOOFER端子に接続してください。
- パッシブサブウーファーS-SLW500とアンプ内蔵サブウーファーはどちらか一方のみ接続してください。両方接続すると、正しいサウンドで再生されません。

スピーカーの接続

スピーカー端子の切り換え

音声を出力するスピーカー端子を3種類の中から切り換えることができます。

1 スピーカー切換ボタンを押して、スピーカー端子を切り換える。

ボタンを押すたびに、以下のようにスピーカー端子が切り換わります。

- SP:A ON － スピーカー端子Aに接続されたスピーカーおよびPRE OUT SURR BACK/FRONT HEIGHT端子と接続したアンプのスピーカーから音が出ます（サラウンド再生が可能です）。
- SP:B ON － スピーカー端子Bに接続されたスピーカーから音が出ます（ステレオ再生となります）。
- SP:A+B ON － 上記AとBの音声が同時に出力されます。STEREOまたはSTEREO ALCモードを選択しているときは、マルチチャンネル音声はダウンミックスされてAおよびBからステレオ音声で出力されます。
- SP: OFF － すべてのスピーカーから音は出ません。

お知らせ

- スピーカーシステムの設定（→20ページ）をNormalにしているときは、SP:A ONおよびSP: OFFのみ選択できます。
- サブウーファーからの音声出力は、スピーカーの設定（→20ページ）の設定によって出るときと出ないときがあります。また、SP:B ONを選択しているときはLFEチャンネルはダウンミックスされないため、サブウーファーからは音が出ません。

機器の接続

機器の接続を行う前に

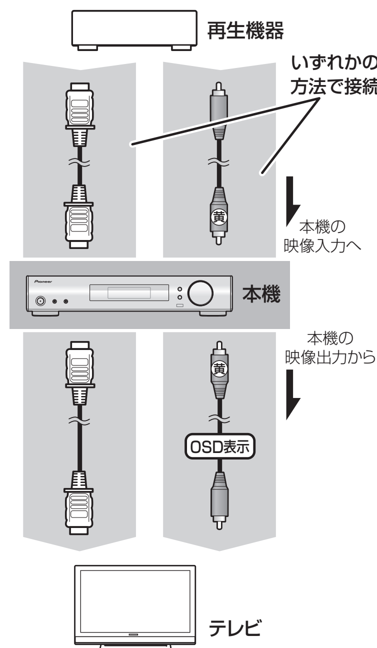
重要

- 機器の接続を行うときは、必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 電源コードを抜くときは、必ず本機の電源を切ってから抜いてください。

再生機器とテレビの接続について

再生機器とテレビを本機に接続する場合、映像信号はコンポジット（ビデオ）またはHDMIのいずれかに統一する必要があります。入力した映像信号を、異なるケーブルの端子へ出力することはできません。

本機のOSD画面をテレビに表示させる場合は、ビデオケーブル（黄）による接続が必要です。HDMIからOSD画面は出力されません。（OSD画面とは、スピーカーの自動設定画面などをテレビで見ることができる便利な機能です。）

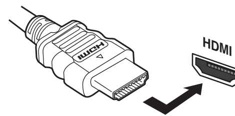


接続ケーブルについて

ケーブルを本機の上や近くに置かないよう注意してください。ケーブルが本機の上に置かれていると、本機の電源装置から磁場が生じて、スピーカーから雑音が発生することがあります。

HDMIケーブル

1本のケーブルで映像信号と音声信号の両方を伝送します。テレビと再生機器を、本機を経由して接続する場合は、両方の機器をHDMIケーブルで接続してください。



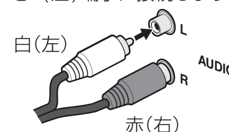
- HDMI端子に接続するときはケーブル端子の向きを合わせて接続します。

お知らせ

- 「オーディオ調整機能を使う」のHDMI設定（→19ページ）でTHROUGHを選択しているときは、HDMI対応機器の音声はテレビから出力されます（本機からは音声は出力されません）。
- 映像信号がテレビの画面に表示されない場合は、HDMI対応機器やテレビの解像度の設定を調整してみてください。なお、機器（テレビゲーム機など）によっては解像度の設定ができないことがあります。このときは（アナログの）ビデオケーブルで接続してください。
- アナログ（コンポジット）映像入力から入力した映像信号は、HDMI OUT端子から出力されません。
- HDMIの映像信号が、480i、480p、576iまたは576pのときは、マルチチャンネルPCM音声およびHD音声を受信することはできません。

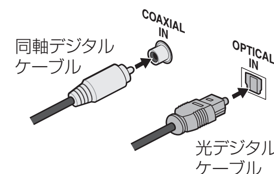
アナログオーディオケーブル（赤/白）

アナログのオーディオ機器を接続するには、オーディオケーブルを使用します。一般的な赤／白プラグのケーブルで、赤いプラグをR（右）端子に、白いプラグをL（左）端子に接続します。



デジタルオーディオケーブル

デジタル機器と本機を接続するには、市販の同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルを使用します。

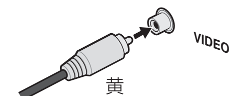


お知らせ

- 光デジタルケーブルを接続するときは、端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉まらなくなることがあります。
- 光デジタルケーブルは、急な角度に折り曲げないでください。保管するときは、直径が15cm以上になるようにしてください。
- 同軸デジタルケーブルは、一般的なビデオケーブルで代用できます。

ビデオケーブル（黄）

一般的な映像用ケーブルで、黄色の映像端子（コンポジット）に接続します。



テレビやブルーレイディスクプレーヤーなどを接続する

HDMIケーブルによる接続

テレビと再生機器(ブルーレイディスクプレーヤーやDVDプレーヤーなど)の両方にHDMI端子がある場合は、市販のHDMIケーブルを使用して本機に接続します。

テレビの音声を本機で聴く場合、以下の接続や設定が必要です。

- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応していない場合は、図のようにオーディオケーブルで音声の接続を行ってください。HDMIケーブルのみの接続では、テレビの音声を本機で聞くことができません。
- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応している場合は、HDMIケーブルを通じてテレビの音声を本機に入力できます。この場合、HDMI設定のARCをONに設定してください(→23ページ)。

お知らせ

- HDMIケーブルのみでテレビと接続した場合は、本機の設定画面(OSD画面)がテレビに表示されません。アナログのビデオケーブル(黄)による接続も行ってください。設定画面を見るときは、テレビの入力を本機とアナログで接続した入力に切り換えてください。
- HDMIによるコントロール機能の連動動作により、対応テレビと本機をHDMIケーブルで接続しているときに、テレビをビデオ入力に切り換えると、本機の入力が自動でTVに切り換わることがあります。その場合は、再度本機の入力をもとの入力に切り換えるか、HDMIによるコントロール機能をOFFにしてください(→23ページ)。

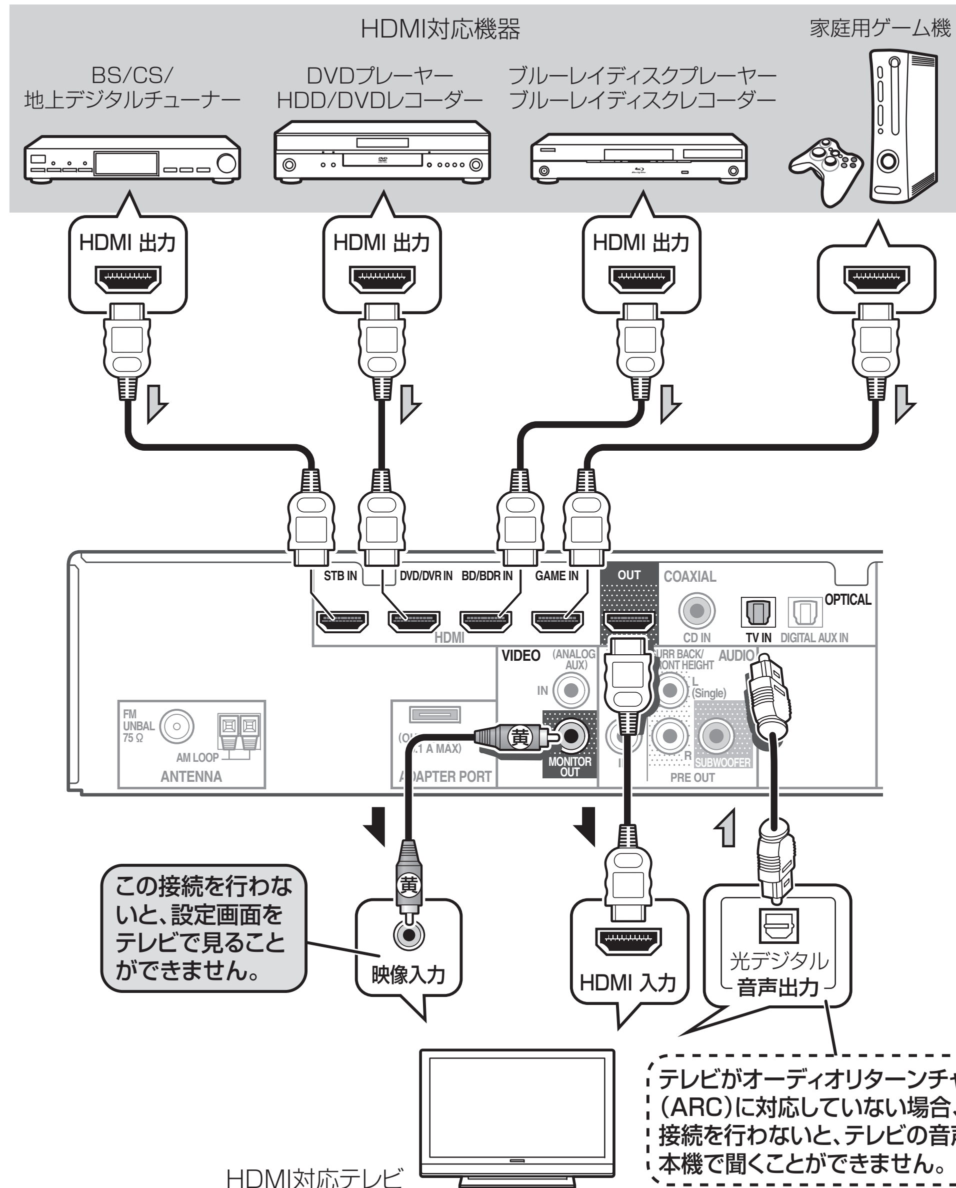
HDMIについて

HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。

本機では、HDMI対応機器とHDMI対応のフラットテレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。ドルビー TrueHDやDTS-HD Master Audioなどのロスレスデジタル音声フォーマットにも対応しています。接続にはHDMIケーブルをお使いください。

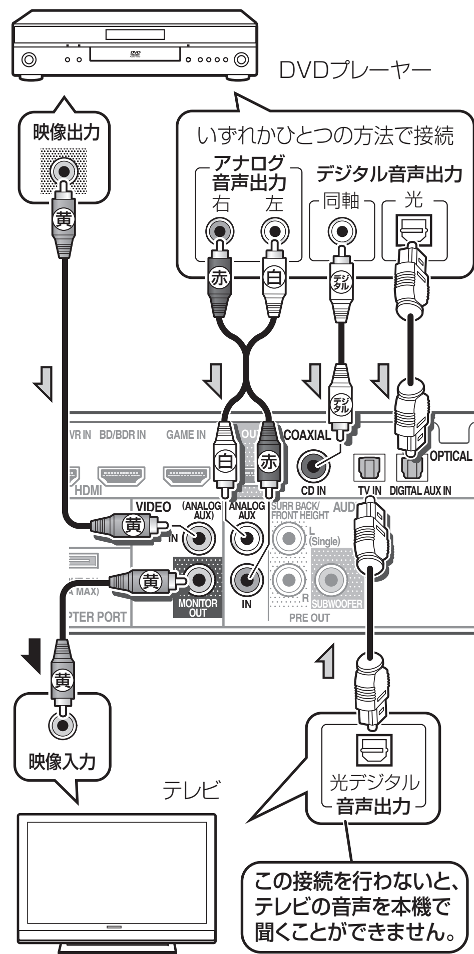
本機はHDMI機器との接続を目的として設計されています。DVI機器に接続した場合、DVI機器によっては正常に動作しない場合があります。

本機は高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能です。(x.v.Colorはソニー株式会社の商標です)。



テレビまたは再生機器にHDMI端子が無い場合の接続

テレビまたは再生機器のどちらかにHDMI端子が無い場合は、それぞれの機器を音声および映像ケーブルで接続します。



お知らせ

- 再生機器を同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルで接続した場合は、CDまたはDIGITAL AUX入力を選んでください。(→13ページ)。

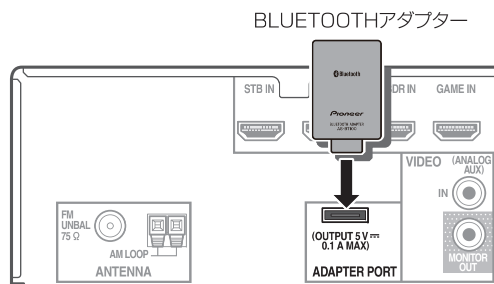
BLUETOOTHアダプターを接続する

別売りのBLUETOOTHアダプター AS-BT100またはAS-BT200を本機に接続するだけで、*Bluetooth*機能搭載機器(携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど)の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

*Bluetooth*機能搭載機器の音楽の再生については、「BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ」(→14ページ)をご覧ください。

重要

- BLUETOOTHアダプターを本機に接続した状態で、本機を移動させないでください。破損や接触不良の原因となります。

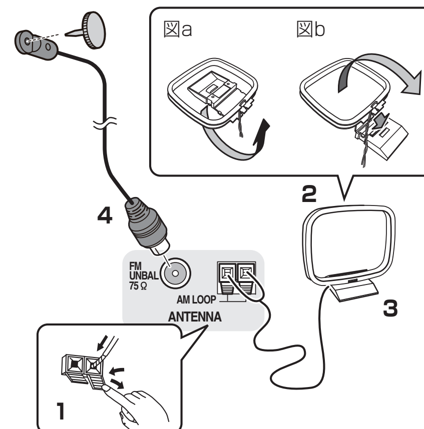


お知らせ

- 本機で*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を再生するには、*Bluetooth*機能搭載機器がプロファイル:A2DPに対応している必要があります。
- すべての*Bluetooth*機能搭載機器との接続動作を保証するものではありません。

アンテナを接続する

AMループアンテナとFMアンテナを下図のように接続します。受信状態と音質を良好にするには外部アンテナの接続をお勧めします(「外部アンテナを接続する」(11ページ)をご覧ください)。

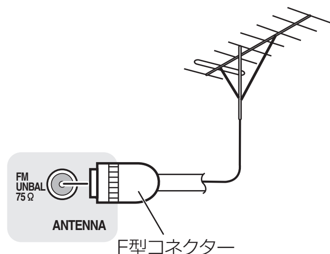


1. 端子のツメを開いて付属のAMアンテナコードを確実に差し込み、ツメを閉じて固定する。
2. AMループアンテナを組み立てる。
AMループアンテナは図a～bをご覧になり組み立ててください。
3. 受信状態が良くて平らな場所にAMアンテナを設置する。
4. 付属のFMアンテナをFMアンテナ端子に接続する。
FMアンテナは、受信状態を良好にするために壁や窓枠などに沿って縦方向に十分に伸ばしてください。

外部アンテナを接続する

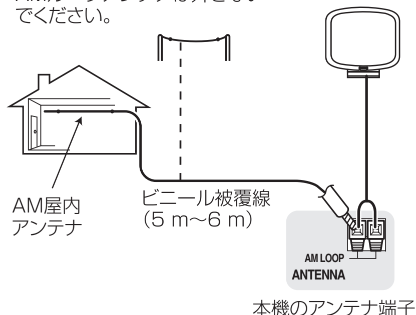
FMの受信感度を上げるために

F型コネクターを使って、屋外用FMアンテナを接続します。



AMの受信感度を上げるために

付属のAMループアンテナを接続したまま、5 m～6 mの長さのAM外部アンテナ（ビニール被覆線）をAM LOOP端子に接続します。屋外に設置するときは、受信感度を上げるためアンテナを水平に伸ばして使用してください。

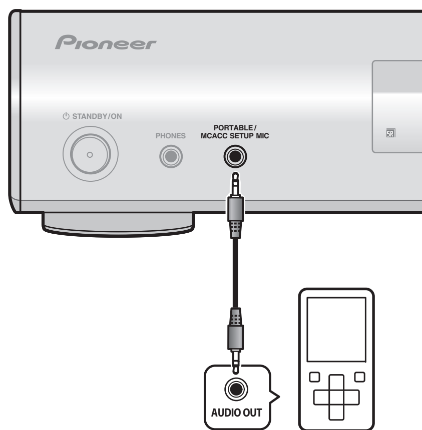


本機のアンテナ端子

前面端子に音声機器を接続する

前面端子に音声機器を接続してリモコンのPORTABLEボタンを押すと、本機で簡単に音声を楽しめます。

接続には、市販のステレオミニプラグ付きケーブルを使用します。



デジタル音楽プレーヤーなど

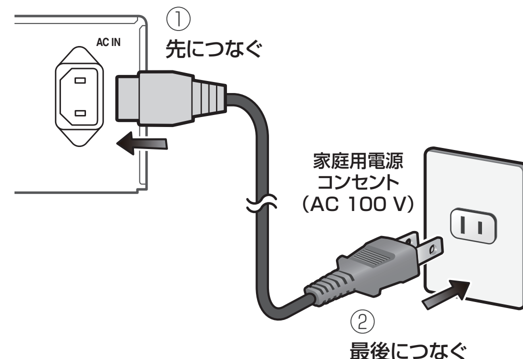
接続が終わったら

電源コードをつなぐ

すべての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント（AC 100 V）に接続します。

⚠ 警告

本機の電源コードは着脱式になっていますが、付属しているコード（電流容量10 A、機器側2Pプラグインソケット方式）以外の電源コードはご使用にならないでください。



お知らせ

- 電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源がオフ（スタンバイ）になります。この際、2秒から10秒間、HDMIに関する初期化動作を行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅しますので、点滅が終了してから本機の操作を行ってください。HDMI設定のコントロール機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。（→23ページ）
- 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。
- 電源コードを抜くときは必ず本機の電源をオフ（スタンバイ）にしてください。

デモ表示を解除する

本機の電源がオンの状態でしばらく操作をしていないときに、フロントパネル表示部にさまざまな表示を行います（デモ表示）。デモ表示はオフにすることができます（→22ページ）。

- スピーカーの自動設定（→ 12ページ）を行うと、デモ表示は自動的に解除されます。

スピーカーの自動設定を行う（オートMCACC）

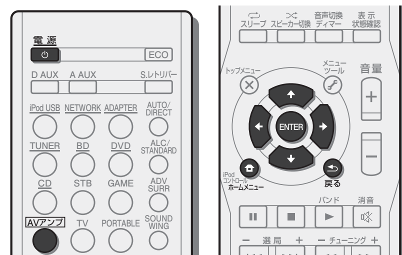
オートMCACC（Multi Channel ACoustic Calibration System）設定では、スピーカーの大きさやリスニングポジションからの距離などを測定し、各スピーカーの出力遅延と出力レベルを調節します。また部屋の暗騒音まで考慮した視聴環境の周波数特性の測定を行い、スピーカーシステム全体の周波数バランスも調節します。設定はスピーカーから出力されるテストトーンを付属のセットアップマイクで測定し、解析します。

⚠ 注意

- テレビをHDMIケーブルのみで接続した場合、ホームメニュー（オートMCACC設定）画面は表示されませんので、**ビデオケーブル(黄)でも接続してください。**本機とテレビの接続は、9ページをご覧ください。
- オートMCACC設定では、テストトーンが大音量で出力されます。

お知らせ

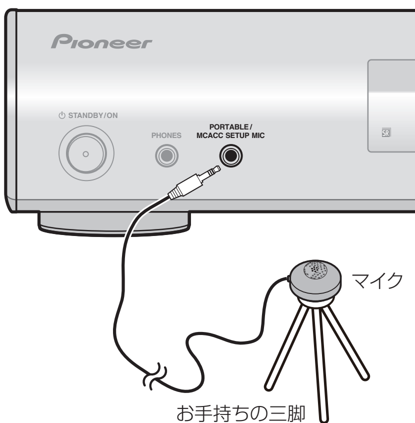
- パイオニア製のスピーカーS-SL100-LR/S-SL100CRやHVTスピーカー（S-HV500-LRなど）を接続しているときは、本機のクロスオーバー周波数を200 Hzに設定してください（→21ページ）。
- 測定中は視聴位置から離れて、各スピーカーの外側からリモコンで操作を行ってください。
- 測定中はできるだけ静かにしてください。
- 測定の途中で音量を下げることもできますが、正しく設定されない場合があります。
- オートMCACC設定を行うと、それ以前に行ったスピーカーに関する設定は、すべて上書きされます。
- 測定を中断した場合は、それまでの測定内容は確定されません。
- オートMCACC画面のまま3分間放置すると、画面にスクリーンセーバー機能が働きますが、いずれかのボタンを押すことでふたたび同じ画面を表示します。



1 本機とテレビの電源をオンにする。

テレビの入力を、本機とビデオケーブル（黄）で接続した入力に合わせてください。

2 フロントパネルのMCACC SETUP MIC端子にマイクを接続する。

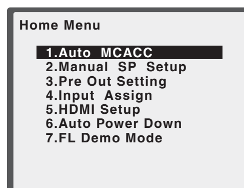


マイクは三脚を使って視聴位置に設置し、耳の高さに合わせます。三脚がないときは、それに代わるものでマイクを設置してください。

- マイクを三脚に固定したら、安定した床の上に設置してください。ソファなどのやわらかい物の上や、テーブルやソファの上など高い場所に設置すると、正しく設定できないことがあります。
- スピーカーと視聴位置（マイク）の間に障害物があると、正確に測定できないことがあります。
- マイクをテレビの近くに置かないでください。

3 リモコンのAVアンプボタンを押してから、ホームメニューボタンを押す。

テレビにホームメニュー画面が表示されます。



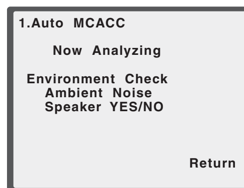
- ⬆/⬇/⬅/➡とENTERボタンで、操作項目を選びます。
- **戻る**ボタンで前の画面に戻ります。
- **ホームメニュー**ボタンでホームメニューを終了します。

アンプ内蔵サブウーファーを接続しているときは、サブウーファーの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。また、外部アンプを使用してサラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーを接続しているときは、外部アンプの電源を入れて音量を適度に上げておいてください。

4 ⬆/⬇ボタンで「Auto MCACC」を選んで、ENTERボタンを押す。

オートMCACC設定が開始されます。

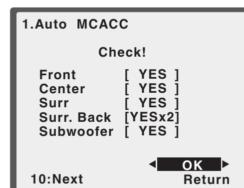
スピーカーシステムの確認のためテストトーンが出力され、測定中を示す画面になります。



- Mic In!と点滅表示した場合は、マイクが正しく接続されていません。MCACC SETUP MIC端子にマイクが接続されているかを確認してください。

5 スピーカーの有り無しを確認する。

測定が終わると、スピーカー有り無しの判定の確認画面が表示されます。10秒間何も操作がないときは自動で手順6へ進み、オートMCACC設定が再開されます。



- Too much ambient noiseといったエラー表示が出たときは、部屋を静かにしてからRETRYを選んでください。詳しくは「オートMCACC設定時のその他の問題」（→13ページ）をご覧ください。

スピーカー有り無し確認画面の見かた：

有無 / スピーカー	接続している	接続していない	規定外の接続
Front フロント左右	YES	ERR	ERR
Front Height フロントハイト左右	YES	- - -	ERR
Center センター	YES	NO	- - -
Surr サラウンド左右	YES	NO	ERR
Surr.Back サラウンドバック左右	YES x 2（2つ接続） YES x 1（1つ接続）	- - -	ERR
Subwoofer サブウーファー	YES	NO	- - -

- フロントハイト左右（Front Height）とサラウンドバック左右（Surr.Back）は、プリアウト端子の設定で選んだスピーカーのみ表示されます。

スピーカーの測定結果が間違っていたときは⬆/⬇ボタンでスピーカーを選んで⬅/➡ボタンで設定を変更します。

エラー（ERR）が表示されたときは、マイクやスピーカー接続に問題があるかもしれません。

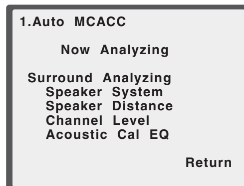
「ERR」表示には次のような種類があります。

- Front：ERR － フロントスピーカーの接続を確認してください。
- Surr：ERR － サラウンドスピーカーの接続を確認してください。
- Surr.Back：ERR － サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーの接続を確認してください。

「RETRY」を選んで再測定しても同じエラーが表示されるときは、電源を切ってからスピーカーの接続を確認してください。

6 ⬆/⬇ボタンで「OK」と表示させてからENTERボタンを押す。

スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離、周波数特性の補正が開始され測定中を示す画面になります。



- 測定中は静かにしてください。この測定には1～3分程度かかります。

7 自動測定が終了するとホームメニュー画面に戻ります。

オートMCACC設定では自動で最適なサラウンド環境を設定しますが、ホームメニューから項目を選んで、各設定を手動で調整することもできます。詳しくは20ページをご覧ください。

お知らせ

- スピーカーの大小判定について、コーンサイズ12 cm程度の同じスピーカーを使っていても、測定時の部屋の環境によっては異なった判定をすることがあります。この場合は「スピーカーの設定を行う」（→20ページ）で手動で設定を変更できます。
- スピーカーまでの距離について、サブウーファーまでの距離が、実際の距離と合わないことがあります。この場合は「スピーカーまでの距離を設定する」（→21ページ）で手動でサブウーファーまでの距離を設定してください。
- スピーカーまでの距離について、サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーまでの距離が実際の距離と合わないことがあります。これはサラウンドバックまたはフロントハイトチャンネル用にご使用の外部アンプがデジタル処理を行うときに発生します。この場合、接続したアンプをあらかじめアナログダイレクトなどのモードに設定してください。アナログダイレクトなどのモードがない場合は、ステレオモードに設定してください。この状態で行った距離補正は正しく行われていますので、特に設定値を変更する必要はありません。

オートMCACC設定時のその他の問題

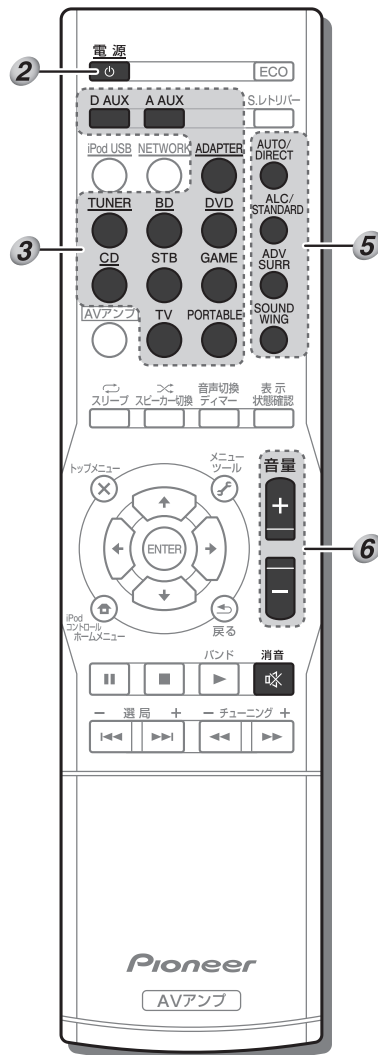
部屋の環境がオートMCACC設定に適していない場合（騒音が大きい、壁の残響が大きい、スピーカーとマイクの間に障害物があるなどの場合）、正しい測定結果を得られないことがあります。測定に影響を与える可能性のある機器（エアコン、冷蔵庫、扇風機など）を確認し、必要に応じてそれらの電源を切ってください。フロントパネルの表示部にメッセージが表示された場合は、その指示に従ってください。

- 旧型のテレビによっては、マイクでの測定に影響を与えるものがあります。その場合は、オートMCACC設定のときだけテレビの電源を切ってください。

再生する

本機から音を出す（基本再生）

本機に接続した他機器やラジオなどの音声を聴くまでの手順です。



1 再生機器の電源をオンにする。

2 電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。

3 入力切り換えボタンを押して聴きたい入力を選ぶ。

入力切り換えボタンはそれぞれ以下の入力に切り換わります。

D AUX※ － DIGITAL AUX端子（光デジタル音声）
A AUX － ANALOG AUX端子（アナログ映像/音声）
ADAPTER － ADAPTER PORT端子
TUNER － TUNER端子（FM/AMラジオ）
BD － BD/BDR端子（HDMI映像/音声）
DVD － DVD/DVR端子（HDMI映像/音声）
CD※ － CD端子（同軸デジタル音声）
STB － STB端子（HDMI映像/音声）
GAME － GAME端子（HDMI映像/音声）
TV － TV端子（光デジタル音声）
PORTABLE － フロントパネルのPORTABLE端子

- 下線が付いている入力切り換えボタンを押すと、リモコンがそれぞれの機器の操作モードに切り換わります（操作できるのはパイオニア製機器のみです）。本機を操作したいときは、先にAVアンプボタンを押してから操作ボタンを押してください。
- ※印が付いている入力は、アナログ映像入力を割り当てることができます（→22ページ）。

4 再生機器の再生を開始する。

5 お好みのリスニングモードを選ぶ。

（→16ページ）

6 音量を調節する。

音量は、MIN（最小）～MAX（最大）の範囲で操作できます。

一時的に音を消したいときは、**消音**ボタンを押します。もう一度押すか、音量を調節すると解除します。

お知らせ

- デジタル入力(光/同軸)で再生できるデジタル信号の形式は、Dolby Digital、PCM (32 kHz ~ 96 kHz)、DTS (DTS 96 kHz/24 bitを含む)およびMPEG-2 AACです。HDMI入力ではさらに、SACD (DSD 2 ch)、DVDオーディオ(192 kHz含む)、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-EXPRESS、DTS-HD Master Audio、DTS-HD Hi-Resolutionなども再生できます。その他のデジタル信号は対応していませんので、アナログで接続しANALOG AUX入力を選択してください。
- HDMI設定のARCをONにした場合、TV入力に切り換えるとHDMIケーブル経由でテレビの音声が入力されます(オーディオリターンチャンネル対応テレビの接続時)。
- ANALOG AUX (アナログ)に接続したDTS対応のLDプレーヤーやCDプレーヤーを再生すると、デジタルノイズが発生することがあります。この場合、デジタルで接続してください。
- DVDプレーヤーによってはDTS信号が出力できないなど、再生できるデジタル信号に制限があります。詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- オーディオ調整機能のHDMIをTHROUGHに設定しているときは、本機からではなくテレビから音が出ます(→19ページ)。

ヘッドホンで聴く

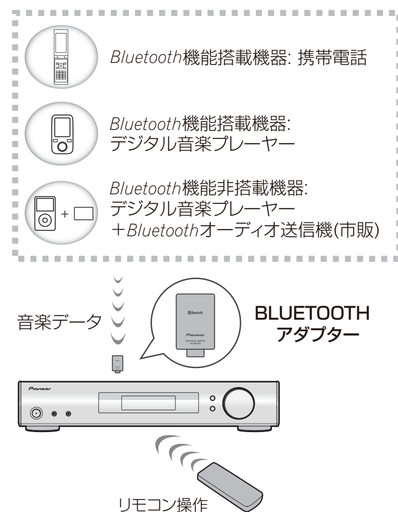
1 ヘッドホンをPHONES端子に差し込む。

ヘッドホンを差し込むと、スピーカーからは音が出なくなります。

リスニングモードはPHONES SURR、STEREOまたはSTEREO ALCのみ選択できます。

(ADAPTER入力のときは、S.R AIRも選択できます。)

BLUETOOTHアダプターを使用してワイヤレスで音楽を楽しむ



別売りのBLUETOOTHアダプター AS-BT100またはAS-BT200を本機に接続するだけで、*Bluetooth*機能搭載機器(携帯電話、デジタル音楽プレーヤーなど)の音楽をワイヤレスで楽しむことができます。市販の*Bluetooth*オーディオ送信機を使って、*Bluetooth*機能非搭載機器の音楽を楽しむこともできます。詳しくは、BLUETOOTHアダプターや*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

- BLUETOOTHアダプターの接続については、「BLUETOOTHアダプターを接続する」(→10ページ)をご覧ください。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、パイオニア株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。他のトレードマークおよび商号は、各所有権者が所有する財産です。

BLUETOOTHアダプターをペアリングする(初期登録)

BLUETOOTHアダプターを使用して*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を楽しむためには、ペアリングを行う必要があります。最初にBLUETOOTHアダプターを使用するとき、または*Bluetooth*機能搭載機器側のペアリングデータを消去したときは、ペアリングを行ってください。

ペアリングは、*Bluetooth*無線技術を利用した通信が可能になるようにするために必要なステップです。

- ペアリングは、BLUETOOTHアダプターおよび*Bluetooth*機能搭載機器を使用する際に、はじめに1回だけ行います。
- *Bluetooth*無線技術を利用した通信を行うために、ペアリングは本機と*Bluetooth*機能搭載機器の両方で行う必要があります。
- *Bluetooth*機能搭載機器のPINコードが0000の場合、本機側でPINコードを設定する必要はありません。ADAPTERボタンを押してADAPTER入力に切り換えてから、*Bluetooth*機能搭載機器側でペアリング操作を行ってください。正しくペアリングが行われた場合、以下の本機でのペアリング操作を行う必要はありません。
- AS-BT200使用時のみ：*Bluetooth*機能搭載機器がSSP (Secure Simple Pairing)に対応しているときはPINコードの設定は必要ありません。ADAPTERボタンを押してADAPTER入力に切り換えてから、*Bluetooth*機能搭載機器側でペアリング操作を行ってください。正しくペアリングが行われた場合、以下の本機でのペアリング操作を行う必要はありません。

詳しくは、*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

1 電源⏻ボタンを押して本機の電源をオンにする。

2 ADAPTERボタンを押す。

本機がADAPTER入力に切り換わります。

- BLUETOOTHアダプターを本機に接続していない場合は、ADAPTER入力を選ぶとNO ADAPTERと表示されます。

3 トップメニューボタンを押す。

4 PAIRINGと表示されていることを確認してENTERボタンを押す。

5 ⬅/➡ボタンでPINコードを選んで、ENTERボタンを押す。

本機のPINコードを*Bluetooth*機能搭載機器と同じPINコードに設定します。本機で設定可能なPINコードは、0000/1234/8888のいずれかです(工場出荷時は、0000に設定されています)。

- ENTERボタンを押すと、PAIRINGと点滅します。

6 ペアリングしたい*Bluetooth*機能搭載機器の電源をオンにして、ペアリング操作を行う。

ペアリングが開始されます。

- *Bluetooth*機能搭載機器は、本機の近くに置いてください。
- *Bluetooth*機能搭載機器のペアリング可能な状態や接続操作などについては、*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

7 *Bluetooth*機能搭載機器がペアリングされたことを確認する。

*Bluetooth*機能搭載機器が正しくペアリングされた場合、本機のフロントパネル表示部に*Bluetooth*機能搭載機器の名前が表示されます(表示できる文字は半角英数字のみです)。

*Bluetooth*機能搭載機器がペアリングされなかった場合、NO DEVICEと表示されます。このときは、*Bluetooth*機能搭載機器側で接続操作を行ってください。

8 *Bluetooth*機能搭載機器のリストからBLUETOOTHアダプターを選んで、手順5で選択したPINコードを入力する。

- PINコードはパスコードやパスキーと呼ばれることがあります。

*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を本機で聴く

1 ADAPTERボタンを押す。

本機がADAPTER入力に切り換わります。

2 *Bluetooth*機能搭載機器とBLUETOOTHアダプターを*Bluetooth*接続する。

*Bluetooth*機能搭載機器側からBLUETOOTHアダプターに対して接続操作を行います。

- 接続操作については、お使いの*Bluetooth*機能搭載機器の取扱説明書をご覧ください。

3 *Bluetooth*機能搭載機器の音楽を再生する。

本機のリモコンで、以下の*Bluetooth*機能搭載機器の操作ができます。

ボタン	機能
▶	再生を開始します。
❚❚	一時停止/一時停止解除します。
■	再生を停止します。
⏮/⏭	再生中に頭出し（スキップ）します。
◀◀/▶▶	再生中に早送り（早戻し）します。

お知らせ

- 本機のリモコンで操作するには、*Bluetooth*機能搭載機器がプロファイル：AVRCPに対応している必要があります。
- すべての*Bluetooth*機能搭載機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。
- *Bluetooth*機能搭載機器によっては異なる動作をする場合があります。

ラジオ放送を聴く

FM/AMラジオ放送を聴くことができます。一度受信した放送局は本機に記憶させて、呼び出すこともできます。

- アンテナが接続されていないと、ラジオ放送を聴くことはできません。10ページを参照して、アンテナを接続してください。

1 TUNERボタンを押してチューナー入力にする。

2 バンドボタンを押して聞きたいバンドを選ぶ。

押すたびにFM（ステレオとモノ）とAMが切り換わります。

3 放送局を受信する。

以下の3つの方法で選局できます。

オートチューニング：

チューニング＋/－(または⬆/⬇)ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を放します。自動で放送局を探し、受信すると止まります。次の放送局を探すときはもう一度押してください。

マニュアルチューニング：

チューニング＋/－(または⬆/⬇)ボタンを押すたびに1ステップずつ周波数を移動します。

ハイスピードチューニング：

チューニング＋/－(または⬆/⬇)ボタンを押し続けると、高速で周波数を移動します。受信したい放送局の周波数でボタンから指を放してください。

お知らせ

- ラジオ放送をモノラルで受信しているときは、フロントパネル表示部に▼が点灯します。また、FMラジオ放送をステレオで受信しているときは、▼が点灯します。
- FMの受信で▼または▼が点灯せず受信状態が悪いときは、**バンド**ボタンを押してモノラル受信（**FM MONO**）に切り換えます。受信感度が良くなり放送が聴きやすくなります。

放送局を記憶させる

よく聴く放送局を30局まで本機に記憶させて、あとから簡単に呼び出すことができます。

1 記憶させたい放送局を受信する。

2 ツールボタンを押す。

フロントパネル表示部にステーション番号が点滅します。

3 選局＋/－（または⬅/➡）ボタンを押して記憶させるステーション番号を選ぶ。

4 ENTERボタンを押す。

保存先のステーション番号の点滅が止まり、本機に放送局が記憶されます。

記憶させた放送局を呼び出す

1 選局＋/－（または⬅/➡）を押して呼び出したい放送局のステーション番号を選ぶ。

記憶させた放送局に名前をつける

選局しやすいように、記憶させた放送局に名前をつけることができます。

1 名前をつけたい放送局を呼び出す。

選局方法については、「記憶させた放送局を呼び出す」（→左記）をご覧ください。

2 ツールボタンを2回押す。

表示部の最初の文字の位置でカーソルが点滅します。

3 名前を入力する。

選局＋/－(または⬅/➡)ボタンで文字の位置を選び、**チューニング＋/－**(または⬆/⬇)ボタンで文字を選びます。

- 名前は8文字まで入力できます。

4 ENTERボタンを押す。

名前が記憶されます。

お知らせ

- 入力した名前を消去するには、上記の手順1～2を行ってから**ENTER**ボタンを押します。このとき**ツール**ボタンを押すと入力した名前を残します。
- 放送局に名前をつけると、**ENTER**ボタンを押すことで、その放送局の名前表示に切り換えることができます。周波数表示に戻したいときは周波数表示になるまで**表示**ボタンを押します。

リスニングモード

リスニングモードを選ぶ

再生機器からの信号にいろいろな音場効果を加えることができます。

重要

- スピーカーの設定や入力信号の種類によって、選択できるサラウンド再生の種類は異なります。

1 **AVアンプボタンを押してリモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **リスニングモードボタンを押してリスニングモードを選ぶ。**

ボタンを押すたびにモードの種類を切り換えて選択できます。

それぞれのリスニングモードについて、以下の設定が選べます。

ALC/STANDARD サラウンド再生やステレオ再生を行う

いつでもサラウンド再生で楽しみたい場合や、ステレオ音声を聞く方に適したモードです。

サラウンド再生のためのデコードを行います。2chソースはマトリックス·サラウンド·デコードをします。

2ch信号入力時	
STEREO ALC	音量差のあるソースに適しています。
PRO LOGIC	4.1chサラウンドです(サラウンドスピーカーからの音声はモノラルです)。
PLIIx MOVIE	最大7.1chサラウンドで、映画に適しています。
PLIIx MUSIC	最大7.1chサラウンドで、音楽に適しています。
PLIIx GAME	最大7.1chサラウンドで、ゲームに適しています。
PLIIz HEIGHT	フロントハイトスピーカーの接続時に適しています。
ストレートデコード	ソース音源に効果を加えずに再生します。
NEO:6 CINEMA	最大7.1chサラウンドで、映画に適しています。
NEO:6 MUSIC	最大7.1chサラウンドで、音楽に適しています。
STEREO	ステレオ2ch再生します。
マルチチャンネル信号入力時	
STEREO ALC	音量差のあるソースに適しています。
PLIIx MOVIE	最大7.1chサラウンドで、映画に適しています。
PLIIx MUSIC	最大7.1chサラウンドで、音楽に適しています。
DIGITAL EX	5.1チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル音声を創り出し、7.1チャンネルで再生します。
PLIIz HEIGHT	フロントハイトスピーカーの接続時に適しています。
ストレートデコード	ソース音源に効果を加えずに再生します。
DTS-ES	DTS-ES信号をそのままデコードし、7.1チャンネルで再生します。
DTS NEO:6	5.1チャンネル信号からサラウンドバックチャンネル音声を創り出し、7.1チャンネルで再生します。
STEREO	ステレオ2ch再生します。

ADV SURR アドバンスドサラウンド再生を行う

ソースに応じた多彩なサラウンドが楽しめるモードです。

デコード処理とパイオニア独自の技術を組み合わせたサラウンド再生モードです。数種類からの選択が可能です。(デコード処理を変更することはできません。)

ACTION	アクション映画などをダイナミックに再生します。
DRAMA	映画などのセリフを明瞭に再生します。
ENT.SHOW	ミュージカルなどの音楽系ソースに適したモードです。
ADV GAME	テレビゲームに適したモードです。
SPORTS	スポーツ番組に適したモードです。
CLASSICAL	大きなコンサートホールのような臨場感で再生します。
ROCK/POP	ロックやポップに適したモードで、ライブ会場のような臨場感で再生します。
UNPLUGGED	アコースティック音楽系ソースに適したモードです。
EXT.STEREO	ステレオ2チャンネル音声をマルチチャンネル音声にして、すべてのスピーカーを使って再生します。
FSS ADVANCE	フロント左右の2本のスピーカーだけでサラウンド感を楽しめます。
SOUND WING	HVTスピーカーを接続したときに適しています。
S.R AIR	*Bluetooth*機能搭載機器の音楽を再生する場合に適しています。
PHONES SURR	ヘッドホン接続時にサラウンド効果を得られます。

AUTO/DIRECT オートサラウンド再生やダイレクト再生を行う

AUTO SURRでは、入力信号に収録されたチャンネル数に応じて再生チャンネル数を自動的に選択します。

(工場出荷時の設定はAUTO SURRです。)

AUTO SURR	再生している音声信号を本機が自動で検出して、マルチチャンネルやステレオなど最適な再生方法が選ばれます。
DIRECT	入力信号を加工せずにソースに忠実な再生を行います。
PURE DIRECT	アナログ信号やPCM信号をデジタル処理せずにそのまま再生します。

ECO エコモードで再生を行う

高音質で再生しながら、消費電力を最大で半減します。

ボタンを押すごとに、エコモードのオン/オフが切り換わります。

リスニングモード

お知らせ

サラウンド再生について

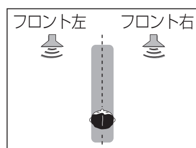
- サラウンドバックch処理の設定(→18ページ)がOFFであったり、サラウンドスピーカーの設定(→20ページ)がNOの場合は、選択できるモードが以下のように変わります。
  DDPLIIx MOVIE → DDPLII MOVIE
  DDPLIIx MUSIC → DDPLII MUSIC
  DDPLIIx GAME → DDPLII GAME
- DDPLII(x) MUSICモードでステレオ2 ch音声を聴いている場合、CENTER WIDTH（センター幅)、DIMENSION（ディメンション)、PANORAMA（パノラマ)の3つの項目を調整できます(→19ページ)。
- DDPLIIz HEIGHTモードのときは、HEIGHT GAIN（ハイトゲイン)の項目を調整できます(→19ページ)。
- NEO:6 CINEMAまたはNEO:6 MUSICモードでステレオ2ch音声を聴いている場合、CENTER IMAGE（センターイメージ)の項目を調整できます(→19ページ)。
- サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、最大5.1ch再生になります。
- 6.1chサラウンドの場合は、左右のサラウンドバックスピーカーからは同じ音が出ます。
- STEREO ALC（オートレベルコントロール)は、音量差を本機で自動的に均一にして再生します。複数のソースを収録した機器の音声を入力しているときに適しています。

ステレオ再生について

- 設定や入力ソースにより、サブウーファーからも音が出力される場合があります。
- 聴感によるスピーカーの設定やミッドナイト／ラウドネス機能、PHASE CONTROL機能、サウンドレトリバー機能、高音／低音の調整などが反映されたステレオ再生を行います。

アドバンスドサラウンド再生について

- FSS ADVANCE（フロントサラウンド・アドバンス)モードでは、臨場感のある自然なサラウンド効果が得られます。フロントスピーカーから等距離の直線上(前後は移動可能)で視聴してください。



- SOUND WINGモードはHVTスピーカー(S-HV500-LRなど)を接続し、スピーカーの自動設定などを行ってスピーカー設定が以下の通り設定されているときのみ選択できます。
  - フロントスピーカー：SMALL
  - サブウーファー：YES
  - それ以外のスピーカー：NO
- SOUND WINGモードはリモコンのSOUND WINGボタンでも選択できます。
- S.R AIRモードはADAPTER入力のときのみ選択できます。

オートサラウンド再生について

- ステレオ2 chの(マトリックス)サラウンドフォーマットは、NEO:6 CINEMAまたはDDPLII(x) MOVIEでデコードされます。

ダイレクト再生について

- DIRECTモードでは、聴感によるスピーカーの設定(スピーカーの設定、スピーカー出力レベル、スピーカーまでの距離)とデュアルモノラル音声、PHASE CONTROL機能やアコースティックキャリブレーションEQ、サウンドディレイ、オートディレイ、LFEアッテネーター、CENTER IMAGE（センターイメージ)などの設定を反映して再生します。入力信号が忠実に再生されます。
- PURE DIRECTモードでは、PCM以外のソースを再生すると、再生直前にノイズが出ることがあります。この場合はDIRECTかAUTO SURRにすることをお勧めします。

エコモード再生について

- エコモードをオン/オフの切り換えをする際は、一度電源がオフになります。
- エコモードでは以下の省電力動作を行います。
  - 音声はフロント左右スピーカーおよびサブウーファーのみ出力されます。
  - フロントパネル表示部のディマーがオンになります。
- 入力を切り換えると、エコモードはオフになります。
- エコモードをオンにしたときは、HDMIによるコントロール機能は働きません。(ただし、オーディオリターンチャンネル(ARC)は利用できます。)
- エコモードをオンにしたときは、ホームメニューやリスニングモードの変更など一部の機能が制限されます。

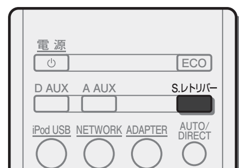
さまざまなサウンド設定

最適な設定でサウンド再生する

再生する音声の出力に関する各種設定を行います。

サウンドレトリバー機能を使う

MP3などの圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能では、DSP処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。



1 **S.レトリバーボタンを押してサウンドレトリバー機能のON、OFFを選択する。**

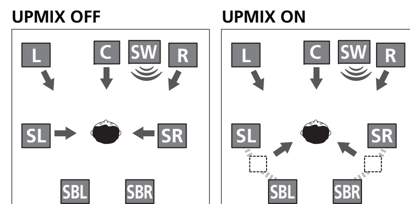
お知らせ

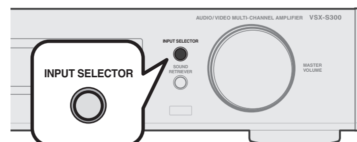
- サウンドレトリバー機能は2chの音声のみ有効です。

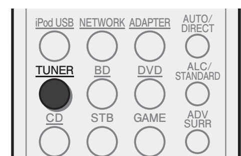
UP MIX機能を使う

「7.1chサラウンド(サラウンドバック)システム」(→6ページ)のスピーカー配置例で、サラウンドスピーカーをリスニングポジションの真横に配置すると、5.1chのサラウンドチャンネルの音声が真横から聞こえてしまいます。本来5.1chのサラウンドチャンネルは斜め後方から聞こえるように収録されているため、本機ではサラウンドチャンネル音声をサラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーでミックスし、リスニングポジションの斜め後方から出力します。

- UP MIX機能は、7.1chサラウンド(サラウンドバック)システムのスピーカー配置を6ページの推奨図のとおりに配置したときに効果があります。
- スピーカーの配置位置や、再生している音源によっては効果が得られないこともあります。その場合はOFFに設定してください。







1 **本機の電源をオフ(スタンバイ)にする。**

2 **フロントパネルのINPUT SELECTORボタンを５秒以上押しながら、リモコンのTUNERボタンを押す。**

UPMIX OFFと表示され、UP MIX機能がオフになります。

- オンにしたいときは手順1 ～ 2をもう一度行います。

お知らせ

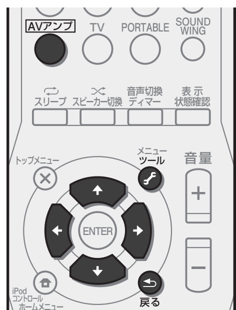
- ここでの設定にかかわらず、DTS-HD信号を再生しているときはUP MIX機能がオンになります。
- UP MIX機能がオンに設定されていても、入力信号やリスニングモードによっては自動でOFFになることもあります。

オーディオ調整機能を使う

サラウンド効果の各種設定ができます。設定はフロントパネル表示部を見ながら行います。

重要

- 入力音声信号の種類や本機の設定の状態によっては、オーディオ調整機能の表示されない項目があります。



1 **AVアンプボタンを押してから、ツールボタンを押す。**

2 **⬆/⬇ボタンで調整したい項目を選ぶ。**

各項目で調整できる内容は以下の表のとおりです。選択項目の初期値は**太字**で示しています。

3 **必要に応じて、⬅/➡ボタンで設定を選ぶ。**

お知らせ

- ※印が付いている項目には、設定の出現条件や制限などがあります。19ページをご覧ください。

設定項目	内容	機能
MIDNIGHT （ミッドナイト）/ LOUDNESS （ラウドネス）	ミッドナイト機能は、サラウンド音声の映画を小音量で見るときに効果的です。音量によってその効果は調整されます。 ラウドネス機能は、音楽を聴くときに小音量でも低域、高域のレベルを自然に調整して聴きやすくします。	**MID/LDN OFF** MIDNIGHT ON LOUDNESS ON
BASS（低音）※a	低音を強調したり弱めたりします。	−6 ～ +6 初期値：**0**
TREBLE（高音）	高音を強調したり弱めたりします。	−6 ～ +6 初期値：**0**
CH LEV※b （チャンネルレベル）	各スピーカーの出力レベルを調整して、スピーカーシステム全体の音量バランスを調整します。	−15dB ～ +15dB 初期値：**0dB** （チャンネルごと）
SB CH （サラウンドバックch処理）	サラウンドバックスピーカーを接続しているときに、サラウンドバックch音声の処理を切り換えます。 • ON － 常にサラウンドバックchへのデコード処理を付加するため、最大の出力チャンネル数で楽しめます。 • AUTO － 入力信号の種類を検出し、サラウンドバックch信号を検出したときのみ、サラウンドバックスピーカーからデコード処理された音声を出力します。ソフトに最も忠実な再生となります。 • OFF － サラウンドバックchへのデコード処理は行わず、サラウンドバックchから音声は出力されません。ただし、UP MIX機能がONのときはサラウンドチャンネルの音声をサラウンドバックスピーカーから出力します。	**ON** AUTO OFF

設定項目	内容	機能
PHASE CTRL※c （フェイズコントロール）	マルチチャンネル再生をする際、LFE(超低域)信号や各チャンネルに含まれる低音成分はサブウーファーや他の最適なスピーカーに振り分ける処理がされます。しかし、この処理には原理上、位相がズレてしまう周波数(群遅延)が発生し、低域だけが遅れて聞こえたり他のチャンネルとの干渉により低音の打ち消し合いが発生してしまうなどの問題があります。本機では、PHASE CTRLモードをONにすることで、原音に忠実な力強い低音を再現できます。工場出荷時はONに設定されています。通常はONでのご使用をお勧めします。 ※位相とは2つの音波の時間的関係を表しています。2つの音波の山と山が合っている状態を位相が合っている、合っていない状態を位相がズレていると言います。	**ON** OFF
EQ※d （アコースティックキャリブレーションEQ）	アコースティックキャリブレーションEQ（「スピーカーの自動設定を行う（オートMCACC）」（→12ページ）で設定された周波数特性の補正）の効果をON/OFFします。	**ON** OFF
SOUND DELAY （サウンドディレイ）	音声全体の遅延時間を調整します(DVDソフトなどで、映像の動きの方がセリフなどの音声より遅れている場合、音声全体を遅らせることで、映像の動きと音声とを合わせることができます)。	0.0 ～ 9.0 フレーム （0.1間隔） （1フレーム＝1/30秒(NTSC) 初期値：**0.0**
SOUND RTRV※e （サウンドレトリバー）	圧縮音声は圧縮処理される際、削除されてしまう部分が発生します。サウンドレトリバー機能をONにすると、DSP処理によってその削除されてしまった部分を補い、音の密度感、抑揚感を向上させます。	**OFF※f** ON
DUAL※g （デュアルモノラル）	モノラルの音声チャンネルを2つ持つデジタル信号をデュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときに再生する音声を選択することができます。 デュアルモノラル信号はあまり多くはありませんが、BSデジタル放送(MPEG-2 AAC)のモノラルの二カ国語放送や音声多重放送で使用されています。 • CH1 － チャンネル1の音声のみを再生します。 • CH2 － チャンネル2の音声のみを再生します。 • CH1 CH2 － 両方のチャンネルの音声をフロントスピーカーから再生します。	**CH1** CH2 CH1 CH2
FIXED PCM （PCMフィックス）	CDなどのPCM信号を再生しているときに、曲の始めが途切れる場合があります。そのときは、ONにすることで改善されます。ONはPCM音声専用です。PCM音声以外の信号では、音が出ずにノイズが出ることがあります。	**OFF** ON

設定項目	内容	機能
DRC （ダイナミックレンジコントロール）	ドルビーデジタルやDTS、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DTS-HD、DTS-HD Master Audioなどで収録された映画の音声について、ダイナミックレンジの圧縮量を選択します。音量を下げてサラウンドを楽しむときでも、微少な音が聞き取りやすくなります。 • AUTO － ドルビー TrueHD信号に対してのみダイナミックレンジを圧縮します。 • MAX － ダイナミックレンジを最大に圧縮します（大きな音を減少させて、小さな音を増大させます）。 • MID － ダイナミックレンジを多少圧縮します。 • OFF － ダイナミックレンジを圧縮しません（音量が大きいときは、OFFにすることをお勧めします）。	**AUTO**※h MAX MID OFF
LFE ATT （LFEアッテネーター）	ドルビーデジタルやDTS音声には、LFE（超低域音声成分）が含まれていることがあります。LFEレベルが大きくて、スピーカーからの音声に歪みが生じるときは、LFEレベルをアッテネート（減衰）します。 • 0dB － 収録されているレベルのまま再生します（通常はこの設定をお勧めします）。 • −5dB ～−20dB － ここで指定したレベルだけLFEレベルをアッテネート（減衰）します。 • OFF － LFE音声を出力しません。	**0dB** −5dB −10dB −15dB −20dB OFF
SACD GAIN※i （SACD ゲイン）	SACDを歪みなく再生するための調整です。 （工場出荷時の「0」は、高レベルで記録されているディスクを再生しても音が歪まない設定になっています。「+6」に設定すると、SACDのデジタル処理に+6 dBのゲインを持たせ、SACDディスクの情報をより忠実に引き出すことができ、高音質再生が可能になります。）	**0** (dB) +6 (dB)
HDMI（HDMI音声）	HDMI INに入力された音声を、どのように再生するかを設定します。「THROUGH」に設定したときは本機からは音が出なくなります。 • AMP － 本機に接続したスピーカーで再生 • THROUGH － HDMI OUTと接続したテレビで再生	**AMP** THROUGH
AUTO DELAY （オートディレイ）	HDMIどうしで接続された機器に対する機能で、音声と映像の遅延時間を自動で調整し、映像の動きと音声を自動で合わせます。※j	**OFF** ON
CENTER WIDTH※k （センター幅）	センターチャンネルの音をフロント左／右スピーカーに振り分けて、音の調和をもたらします。0はセンタースピーカーからのみの出力で、7はセンターチャンネルの音声すべてを左右のフロントスピーカーに振り分けます。	0～7 初期値：**3**
DIMENSION※k （ディメンション）	リスニングポジションから前方の音場を強くするか、後方の音場を強くするかを調整することで広がりのある音場を創り出すことができます。+3は前方の音場が強くなり、–3は後方の音場が強くなります。	–3～+3 初期値：**0**
PANORAMA※k （パノラマ）	前方の音場を左右に大きく回り込ませ、サラウンドチャンネルにつなげるようなサラウンド効果を加えます。正確な定位よりも雰囲気を楽しむための機能です。	**OFF** ON

設定項目	内容	機能
CENTER IMAGE※l （センターイメージ）	センターチャンネルの音声を左右のフロントスピーカーにどの程度振り分けるかを調整します。音色の不一致が緩和され、音楽再生に適した音場を創り出すことができます。0はほぼすべて左右のフロントスピーカーに振り分け、10は主にセンタースピーカーから再生します。	0～10 初期値：**3** （NEO:6 MUSIC） 初期値：**10** （NEO:6 CINEMA）
HEIGHT GAIN （ハイトゲイン）	PLIIz HEIGHTモードを選んでいるときにフロントハイトスピーカーから出力される音声の調整をします。**HIGH**を選択すると、最も上方からの臨場感が増します。	HIGH **MID** LOW

※a スピーカーの設定メニューまたはスピーカーの自動設定でフロントスピーカーがSMALLに設定されて、クロスオーバー周波数が150 Hz以上に設定されている場合、BASSの調整はできません。「チャンネルレベル」（→18ページ）でサブウーファーのチャンネルレベルを調整してください。

※b • 各スピーカーは以下の文字で表されます。

L：	フロント左	SR：	サラウンド右
FHL：	フロントハイト左	SBR：	サラウンドバック右
C：	センター	SBL：	サラウンドバック左
FHR：	フロントハイト右	SL：	サラウンド左
R：	フロント右	SW：	サブウーファー

• スピーカーの設定が**NO**のスピーカーは選択できません。

※c • サブウーファー本体にPHASE切換スイッチがついているときはプラス側（0°側）に設定してください。ただし、本機のPHASE CONTROLをONにしても効果が分かりにくいときは、サブウーファーの固体差が考えられますので、効果の大きい方を選んでください。また効果がわかりにくいときはサブウーファーの向きや場所を少しずつ変えてみることもお勧めします。

• サブウーファー内蔵のLowpassフィルタスイッチをOFFにしてください。OFFにできないサブウーファーは高いカットオフ周波数に設定してください。

• スピーカーの距離を正しく設定しないと、PHASE CONTROLの効果が正しく出ない場合があります。

• **PURE DIRECT**モードのときやヘッドホンを使用しているときは、PHASE CONTROLモードをONにすることができません。

※d • ONにするとフロントパネルのMCACCインジケーターが点灯します。

• DIRECTおよびPURE DIRモードのときは使用できません。また、ヘッドホンで聴いているときは効果がありません。

※e サウンドレトリバー機能は、**S.レトリバー**ボタンでも設定できます。

※f **ADAPTER**入力のときの初期値はONです。

※g デュアルモノラルの設定は、HDD/DVDレコーダーで録画された二カ国語放送などについては、ドルビーデジタル音声かDTS音声をデュアルモノラルモードで録画されたもののみ有効です。

※h 初期値の**AUTO**はドルビー TrueHD信号に対してのみ有効です。ドルビー TrueHD信号以外のときにダイナミックレンジコントロールを有効にしたいときはMAXかMIDを選びます。

※i 通常のSACDを再生しているときは問題ありませんが、もしもノイズが発生する場合は**0** dBに設定してください。

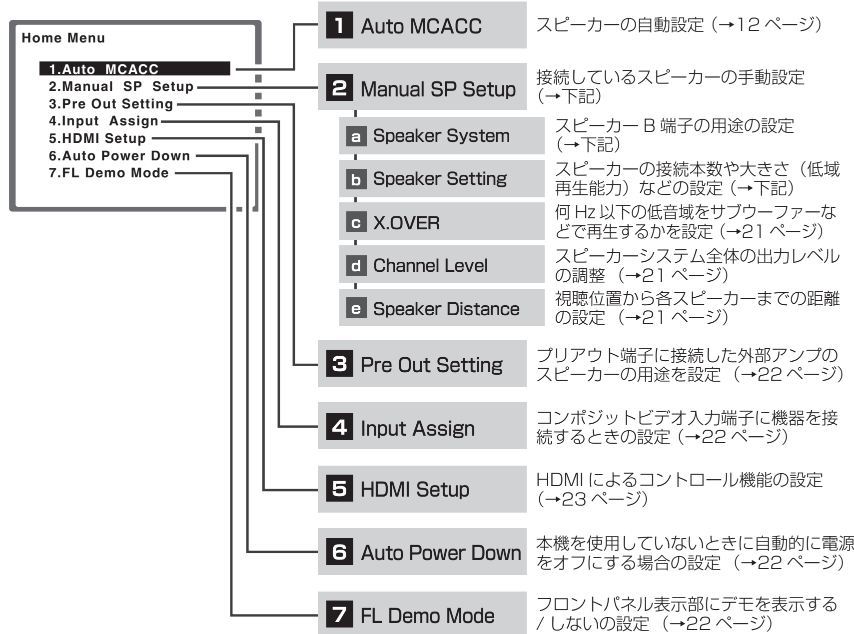
※j HDMIで接続されたリップシンク対応のテレビにのみ有効です。ONに設定しても音声全体の遅延時間が改善されないときは、OFFに設定して「サウンドディレイ」（→18ページ）を手動で調整してください。

※k **PLII MUSIC**モードでステレオ2チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

※l **NEO:6 CINEMA**または**NEO:6 MUSIC**モードでステレオ2チャンネル音声を入力しているときのみ使用できます。

ホームメニューで本機の設定を行う

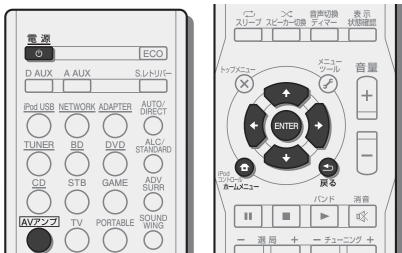
ホームメニューでは、本機に接続したスピーカーのさまざまな調整や各種端子の用途などを設定します。設定できる項目は以下のとおりです。





重要

- テレビをHDMIケーブルのみで接続した場合、ホームメニュー画面は表示されません。本機の設定を行う際は、テレビをビデオケーブル（黄）で接続してください。



1 本機とテレビの電源をオンにする。

テレビの入力を、本機とビデオケーブル（黄）で接続した入力に合わせてください。

2 AVアンプボタンを押してから、ホームメニューボタンを押す。

テレビに上記のホームメニュー画面が表示されます。

3 上記の調整したい項目を選んで設定を行う。

- ⬆/⬇/⬅/➡とENTERボタンで、操作項目を選びます。
- **戻る**ボタンで前の画面に戻ります。
- **ホームメニュー**ボタンで設定を終了します。

4 ホームメニューボタンを押して設定を終了する。

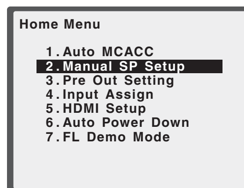
戻るボタンを数回押して終了することもできます。

聴感によるスピーカーの設定を行う

スピーカーの自動設定（→12ページ）でオートMCACC設定を行った場合は、すでにリスニング環境に最適なスピーカー設定になっていますが、お好みで設定を変更することができます。

1 ホームメニュー画面の中から「Manual SP Setup」を選択する。

- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は左記をご覧ください。

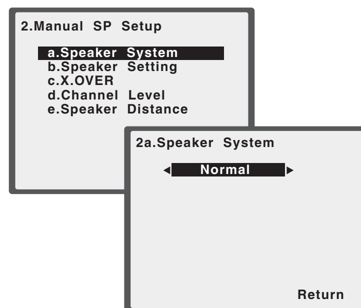


スピーカーシステムの設定を行う

- 工場出荷時の設定：Normal

スピーカー B端子の用途を選択します。5.1 chサラウンドシステムのサラウンドスピーカーの接続に使用するほか、メインの部屋とは他の場所にスピーカーを設置して、ステレオで聴くことができます。

1 Manual SP Setupの設定項目から「Speaker System」を選択する。



2 ⬅/➡ボタンでスピーカー B端子の用途を選択する。

- Normal ― サラウンドスピーカーの接続に使用します。
- Speaker B ― 他の部屋でスピーカー Bシステムとして使用します。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。



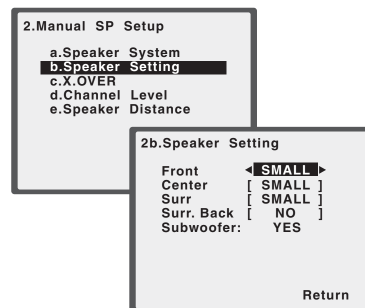
重要

- スピーカーシステムの設定を変更した場合は、スピーカーの自動設定（→12ページ）を再度行ってください。

スピーカーの設定を行う

スピーカーの大きさや本数を設定して、再生する音域を最適なチャンネルへ配分します。

1 Manual SP Setupの設定項目から「Speaker Setting」を選択する。



2 ⬆/⬇ボタンで設定したいスピーカーを選んで、⬅/➡ボタンで大きさを選択する。

スピーカーごとに以下の設定を選べます。

スピーカー	選択項目
Front（フロント）	LARGE ／ SMALL
Center（センター）	LARGE ／ SMALL ／ NO
Front Height（フロントハイト）	LARGE ／ SMALL ／ NO
Surr（サラウンド）	LARGE ／ SMALL ／ NO
Surr. Back（サラウンドバック）	LARGEX1 ／ LARGEX2 ／ SMALLX1 ／ SMALLX2 ／ NO
Subwoofer（サブウーファー）	YES ／ PLUS ／ NO

- **フロントスピーカー**
  低音域の再生能力が高い場合はLARGEを、低い場合はSMALLを選びます。
- **センター/フロントハイト/サラウンドスピーカー**
  低音域の再生能力が高い場合はLARGEを、低い場合はSMALLを選びます。接続しない場合はNOを選びます(そのチャンネルの音声は、他のスピーカーから出力されます)。
- **サラウンドバックスピーカー**
  接続している本数を選んでください(1本または2本)。低音域の再生能力が高い場合はLARGEを、低い場合はSMALLを選びます。接続しない場合はNOを選びます(サラウンドバックチャンネル音声は、他のスピーカーから出力されます)。
- **サブウーファー**
  SMALLに設定されたスピーカーの低音域とLFE信号(ドルビーデジタルやDTS信号に含まれる超低域信号成分)をサブウーファーから再生するときはYESを選びます。サブウーファーから常に低音を再生したいときや、低音を強調したいときはPLUSを選びます(このとき、通常はフロントやセンタースピーカーで再生している低音域をサブウーファーでも再生します)。また、サブウーファーを接続していないときはNOを選びます(このとき低音域は他のLARGEに設定されたスピーカーで再生されます)。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

お知らせ

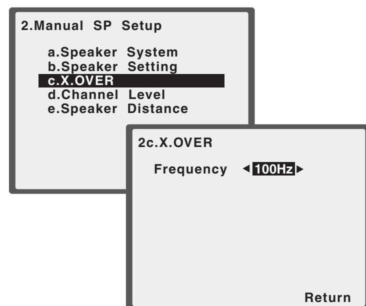
- フロントハイトスピーカーは、プリアウト端子の設定(→22ページ)でHeightを選んでいるときのみ設定できます。
- サラウンドバックスピーカーは、プリアウト端子の設定(→22ページ)でSurr. Backを選んでいるときのみ設定できます。
- フロントスピーカーがSMALLに設定されているときは、サブウーファーは自動的にYESに設定されます。また、他のスピーカーでLARGEを選択できません。このとき、各チャンネルの低音域はサブウーファーから出力されます。
- サラウンドスピーカーがNOに設定されているときは、フロントハイトおよびサラウンドバックスピーカーは自動的にNOに設定されます。
- サブウーファーをPLUSに設定した場合、サブウーファーの低音域とフロントスピーカーの低音域が打ち消し合ってしまい、十分な低音の効果が発揮されないことがあります。このようなときは、スピーカーの設置場所や向きなどを変えてみてください。それでも解消されないときは実際に音を出しながらサブウーファーをYESにしたり、フロントスピーカーをSMALLにしてみて比較し、最適な設定にしてください。

クロスオーバー周波数を設定する

- 工場出荷時の設定：100Hz

スピーカーの設定(→20ページ)でSMALLに設定されたスピーカーがあるとき、何Hz以下の低音域をLARGEに設定されたスピーカーまたはサブウーファーで再生するかを設定します。また、LFE信号についても同様に、何Hz以下の低音域を再生するかが設定されます。

1 Manual SP Setupの設定項目から「X.OVER」を選択する。



2 ⬅/➡ボタンでクロスオーバー周波数を選ぶ。

ここで選択された周波数以下の低音域は、サブウーファーまたはLARGEに設定されたスピーカーから再生されます。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

お知らせ

- スピーカーの大きさなどの設定については、「スピーカーの設定を行う」(→20ページ)をご覧ください。

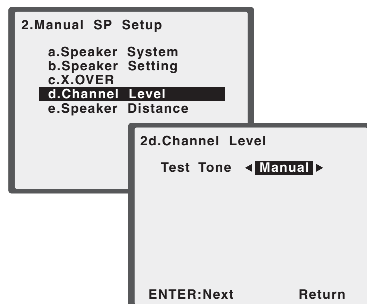
スピーカー出力レベルを設定する

各スピーカーの出力レベルを設定することで、スピーカーシステム全体のバランスを調整します。

⚠ 注意

- スピーカー出力レベルの設定では、テストトーンが大音量で出力されます。

1 Manual SP Setupの設定項目から「Channel Level」を選択する。

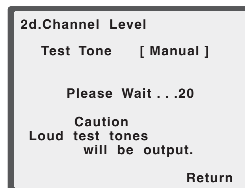


2 ⬅/➡ボタンで設定方法を選ぶ。

- Manual － テストトーンを出力するスピーカーを手動で切り換えて調整します。
- Auto － テストトーンを出力するスピーカーが自動で切り換わります。

3 ENTERボタンを押す。

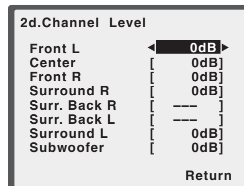
音量が自動的に上がり、大きな音でテストトーンが出力されます。



4 ⬅/➡ボタンで各スピーカーの出力レベルを調整する。

Manualを選んだときは、⬆/⬇ボタンでスピーカーを選択します。Autoを選んだときは、以下の順番でテストトーンが出力されます。

L → C → R → SR → SBR → SBL → SL → SW



テストトーンを聞きながら、各スピーカーの出力レベルを調整してください。

5 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

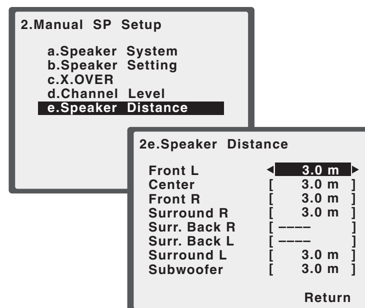
お知らせ

- 音圧計を使用して出力レベルを調整する場合は、視聴位置で測定して、各スピーカーの出力レベルを75 dB SPL(C-ウェイト／スローモード)に調整してください。

スピーカーまでの距離を設定する

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定することで、各チャンネルの遅延時間が自動的に算出され、最適なサラウンド効果を得ることができます。

1 Manual SP Setupの選択項目から「Speaker Distance」を選択する。



2 ⬆/⬇ボタンで設定するスピーカーを選んで、⬅/➡ボタンで各スピーカーまでの距離を設定する。

0.1 m間隔で調整できます。

3 戻るボタンを押して終了する。

Manual SP Setupの設定画面に戻ります。

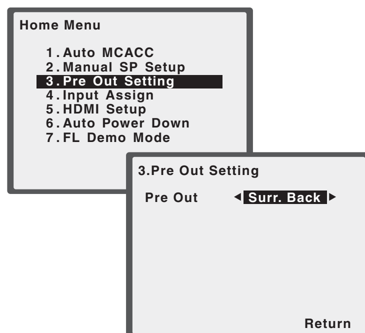
各部の名称
接続
基本設定
再生
応用設定
困ったとき
付録

プリアウト端子の設定を行う

プリアウト端子をサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイトスピーカーの接続に使用するかを指定します。スピーカーの接続には外部アンプが必要です。

- 工場出荷時の設定：Surr.Back

1 ホームメニュー画面の中から「Pre Out Setting」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は20ページをご覧ください。

2 ⬅/➡ボタンでプリアウト端子の用途を選ぶ。

- Surr.Back － サラウンドバックスピーカーの接続に使用します。
- Height － フロントハイトスピーカーの接続に使用します。

3 戻るボタンを押して終了する。

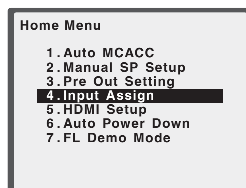
ホームメニュー画面に戻ります。

アナログビデオ入力端子の設定を行う

アナログコンポジットビデオ入力はANALOG AUX入力に割り当てられていますが、DIGITAL AUXまたはCD入力の映像入力端子として使用するように設定を変更できます。

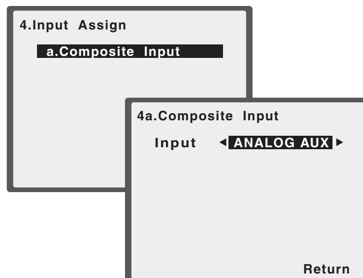
- 工場出荷時の設定：ANALOG AUX

1 ホームメニュー画面の中から「Input Assign」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は20ページをご覧ください。

2 Input Assignの設定項目から「Composite Input」を選択する。



3 ⬅/➡ボタンでアナログコンポジットビデオ入力に割り当てたい入力を選ぶ。

5 戻るボタンを押して終了する。

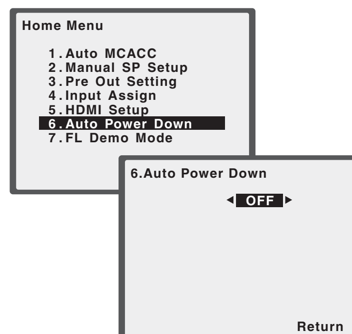
Input Assignの設定画面に戻ります。

自動電源オフの設定を行う

本機の電源がオンのときに、長時間何も操作していない場合に自動的に電源をオフにするように設定できます。

- 工場出荷時の設定：OFF

1 ホームメニュー画面の中から「Auto Power Down」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は20ページをご覧ください。

2 ⬅/➡ボタンで電源がオフになるまでの時間を選ぶ。

2/4/6時間、またはOFF（自動電源オフしない）を選びます。

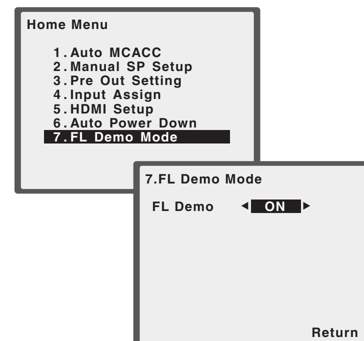
3 戻るボタンを押して終了する。

ホームメニュー画面に戻ります。

デモ表示の設定を行う

本機のフロントパネル表示部のさまざまなデモ表示について、表示する/しないを選びます。

1 ホームメニュー画面の中から「FL Demo Mode」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は20ページをご覧ください。

2 ⬅/➡ボタンでデモ表示のON/OFFを選ぶ。

3 戻るボタンを押して終了する。

ホームメニュー画面に戻ります。

HDMIによるコントロール機能

HDMIによるコントロール機能対応のパイオニア製テレビやブルーレイディスクプレーヤー、またはHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品などを、HDMIケーブルで本機と接続することで、以下のような連動動作が可能になります。

- **シアターモード**
  テレビから本機の音量調節や消音(ミュート)操作
- **テレビとの電源連動**
- **自動入力切り換え**
  テレビの入力切り換えやプレーヤーなどの再生開始による、本機の自動入力切り換え

お知らせ

- パイオニア製の機器によっては、HDMIによるコントロール機能が「KURO LINK」と表記されていることがあります。
- パイオニア製HDMIによるコントロール機能対応機器、およびHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品(→24ページ)以外との連動動作は保証外です。HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品であっても、すべての連動操作を保証するものではありません。
- HDMIによるコントロール機能を使うときはハイスピードHDMIケーブルをお使いください。それ以外のHDMIケーブルではHDMIによるコントロール機能が正しく動作しないことがあります。
- 具体的な操作や設定方法などについては、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

HDMIによるコントロール機能対応機器を接続する

本機にはHDMIによるコントロール機能対応テレビのほかに、最大3台のHDMI機器を接続して連動動作させることができます。接続にはハイスピードHDMIケーブルをご使用ください。接続方法については、「HDMIケーブルによる接続」(→9ページ)をご覧ください。接続が終わったら「コントロール機能を設定する」(→右記)を行ってください。

- お手持ちのテレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応している場合は、HDMIケーブルを通じてテレビの音声を本機に入力できます。この場合、HDMI設定のARCをONに設定してください(→右記)。

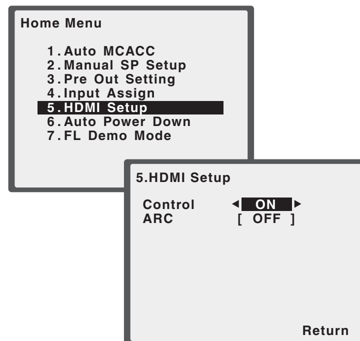
お知らせ

- HDMIによるコントロール機能対応機器の接続終了後、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMIに関する初期化動作を2秒から10秒程度行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅します。本機の操作は点滅が終了してから行ってください。「コントロール機能を設定する」(下記)でHDMIによるコントロール機能をOFFにすることで、この処理は行われなくなります。
- 本機のHDMIによるコントロール機能を十分に発揮するために、HDMI機器は本機に直接接続してください。

コントロール機能を設定する

本機のHDMIによるコントロール機能を有効にするかどうかを設定します。本機の設定以外にも、本機と接続するHDMIによるコントロール機能対応機器の設定も必要です。詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

1 ホームメニュー画面の中から「HDMI Setup」を選択する。



- ホームメニュー画面を表示するまでの手順は20ページをご覧ください。

2 ⬅/➡ボタンでコントロール機能(Control)のON/OFFを選ぶ。

- ON – HDMIによるコントロール機能が有効になります。
- OFF – HDMIによるコントロール機能は無効になり、連動動作することはできません。

3 ⬆/⬇ボタンで「ARC」を選んでから、⬅/➡ボタンでオーディオリターンチャンネルのON/OFFを選ぶ。

- ON – HDMI経由でテレビの音声を入力します。手順2のControlがONのときのみ選択できます。テレビの設定も必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- OFF – テレビの音声を入力するには、テレビとオーディオケーブルで接続した入力を選びます。

4 戻るボタンを押して終了する。

ホームメニュー画面に戻ります。

連動動作を開始する前に動作確認する

接続と設定が終了したら、下記の確認作業を必ず行ってください。

1 すべての機器をスタンバイ状態にする。

2 テレビ以外のすべての機器の電源をオンにする。

3 テレビの電源をオンにする。

4 テレビの入力を本機が接続されたHDMI入力に切り換える。

5 本機の入力をHDMI機器が接続されたHDMI入力に切り換える。

6 手順5で選んだHDMI入力に接続した機器を再生する。

テレビに映像が表示されることを確認します。

7 手順5～6を繰り返し、すべてのHDMI入力を確認する。

連動中の動作について

本機と接続したHDMIによるコントロール機能対応機器は、以下のような連動動作をします。

- **シアターモード**
  - HDMIによるコントロール機能対応テレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、シアターモードにすることができます。
  - シアターモードのときに、本機の電源を切ることでシアターモードは解除されます。このときテレビのメニュー画面等でアンプから音を出すように操作すると、本機の電源がオンになり、再度シアターモードになります。
  - シアターモードのときに、テレビのメニュー画面等でテレビから音を出すように操作すると、シアターモードが解除されます。
  - シアターモードを解除すると、テレビでHDMI入力またはテレビ放送を視聴していた場合、本機の電源が切れます。
- **テレビとの電源連動**
  - テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。（本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。）
- **自動入力切り換え**
  - HDMIによるコントロール機能対応機器の再生操作に連動して、本機の入力が自動的に切り換わります。
  - テレビの入力を切り換えると、本機の入力が連動して切り換わります。
  - 本機の入力をHDMI以外に切り換えても連動動作は継続されます。

HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品と接続する

本機のHDMIによるコントロール機能との互換性がある他社製テレビと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

(お使いのテレビによっては、すべてのHDMIによるコントロール機能が働くわけではありません。)

- テレビのメニュー画面で、本機に接続したスピーカーから音を出すか、テレビのスピーカーから音を出すか、どちらかに設定できます。
- テレビのリモコンで、本機の音量調節や消音(ミュート)操作ができます。
- テレビの電源をスタンバイ状態にすると、本機の電源もスタンバイ状態になります。（本機にHDMI接続されている機器の入力を選択しているときや、テレビを視聴している場合のみ。）
- テレビ放送やテレビに接続した外部入力の音声も、本機に接続したスピーカーから出力できます。（HDMIケーブルのほかに光デジタルケーブルなどの接続が必要です。）

本機のHDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製プレーヤーやレコーダーと接続してお使いになると、下記の連動動作ができます。

- プレーヤーやレコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器を接続しているHDMI入力に切り換わります。

お知らせ

HDMIによるコントロール機能と互換性のある他社製品

以下の他社製テレビと互換性があります。(順不同)

- シャープ株式会社製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」
- パナソニック株式会社製ビエラリンク対応のテレビ
- 株式会社東芝製レグザリンク対応のテレビ
- 株式会社日立製作所製Woooリンク対応のテレビ
- ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」

以下の他社製プレーヤーやレコーダーと互換性があります。（順不同）

- 株式会社シャープ製AQUOSファミリンク対応のデジタルハイビジョンレコーダー「AQUOSハイビジョンレコーダー」、ブルーレイディスクレコーダー「AQUOSブルーレイ」（株式会社シャープ製AQUOSファミリンク対応の液晶テレビ「アクオス」とあわせてお使いのときのみ）
- パナソニック株式会社製ビエラリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（パナソニック株式会社製ビエラリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- 株式会社東芝製レグザリンク対応のプレーヤーおよびレコーダー（株式会社東芝製レグザリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- 株式会社日立製作所製Woooリンク対応のレコーダー（株式会社日立製作所製Woooリンク対応テレビとあわせてお使いのときのみ）
- ソニー株式会社製ブラビアリンク対応のブルーレイディスクプレーヤーおよびレコーダー（ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」とあわせてお使いのときのみ）

以下の他社製商品と互換性があります。

- 株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント製ブラビアリンク対応の「プレイステーション 3」（ソニー株式会社製ブラビアリンク対応の液晶テレビ「ブラビア」とあわせてお使いのときのみ）

上記以外の他社製品との連動動作は保証外です。

互換性のある他社製品の型名など最新の情報については、パイオニアホームページ(http://pioneer.jp/)をご覧ください。

※ AQUOSファミリンクは、シャープ株式会社の登録商標です。

※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

※ ブラビアリンクは、ソニー株式会社の登録商標です。

※「プレイステーション」は、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

※ その他文中の商品名、技術名および会社名等は、当社や各社の商標または登録商標です。

HDMIによるコントロール機能についてのご注意

- HDMIによるコントロール機能対応テレビの音声出力と本機の音声入力を接続し、HDMIによるコントロール機能対応テレビのリモコンでシアターモードにすることで、テレビの入力を切り換えたときなど、本機の入力が自動で切り換わり本機から音が出るようになります。このときテレビの音声は消音されます。接続は光デジタルまたはアナログのいずれかで接続してください。
- テレビやソース機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)は本機に直接接続してください。本機以外のアンプやAVコンバーター（HDMIスイッチ）などに接続してから本機に接続すると、誤動作の原因となります。
- HDMIによるコントロール機能がONの状態で、本機の電源コードをコンセントに差し込むと本機の電源が入ります。この際、HDMIに関する初期化動作を2秒から10秒程度行います。初期化中はHDMIインジケーターが点滅します。本機の操作は点滅が終了してから行ってください。
- 本機のHDMIによるコントロール機能がONのときは、本機の電源がスタンバイ状態であっても、HDMIによるコントロール機能対応機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)と対応テレビで接続しているときのみ、本機から音を出さずにプレーヤーからの音声と映像をHDMIを通してテレビに出力できます。このときHDMIインジケーターが点灯します。

困ったとき

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら下記の項目を確認してください。また、本機と接続している機器（テレビなど）もあわせて確認してください。それでも正常に動作しないときは『保証とアフターサービス』（➞28ページ）をお読みのうえ、販売店にお問い合わせください。

症状	改善策
全般	
電源が入らない。	• 電源プラグを抜いて、もう一度差し込んでください。
自動的に電源が切れる。	• 自動電源オフ機能がONの場合、本機を長時間操作していないと自動的に電源がオフになります。自動電源オフ機能の設定を確認してください（➞22ページ）。 • スピーカーコードの芯線がリアパネルに接触していたり、プラスとマイナスがショートしていないか確認してください。接触していたりショートしていると、電源が自動的に切れます。 • すべてのスピーカーコードを外して電源を入れてみてください。電源が正常な場合は、電源を切ってからスピーカーコードを正しく接続し直してください。スピーカーコードを外しても電源が切れてしまうときは、電源プラグを抜いて、パイオニアカスタマーサポートセンターへご連絡ください（裏表紙参照）。
自動的に電源が入る、電源が切れる。入力が勝手に切り換わる。（HDMIによるコントロール機能がオンの場合）	• HDMIによるコントロール機能の連動動作です。連動動作が不要な場合は、HDMIによるコントロール機能をオフにしてください（➞23ページ）。
OVERHEATと表示されて、電源が切れる。	• 本機内部の温度が許容値を超えています。通風が良くなるように、本機の設置を変えてください（➞3ページ）。 • 音量を下げて使用してください。
OVER TEMPと表示されて、音量が勝手に下がる。	• 本機内部の温度が許容値を超えています。通風が良くなるように、本機の設置を変えてください（➞3ページ）。 • 音量を下げて使用してください。
入力を合わせても音声が出ない。	• **音量**ボタンを押して、音量を上げてください。 • **消音**ボタンを押して、ミュートを解除してください。 • 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「機器の接続」（➞8ページ）をご覧ください。 • ソース機器の設定が間違っている可能性があります。ソース機器を正しく設定してください（➞8ページ）。
入力を合わせても映像が出ない。	• 機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは「機器の接続」（➞8ページ）をご覧ください。 • 入力機器とテレビは同じ種類のケーブルで本機と接続してください（➞8ページ）。
ホームメニュー画面がテレビに表示されない。	• テレビとHDMIケーブルのみで接続した場合は、ホームメニュー画面（OSD画面）がテレビに表示されません。ビデオケーブル（黄）で接続し、テレビの入力をこれらの接続に合わせてください（➞8ページ）。
AMラジオのオートチューニング中に、スピーカーからプツプツと音が出る。	• 受信性能を向上させるためであり、故障ではありません。
ラジオ受信中に雑音が多い、放送局が自動的に選ばれない。	• 受信が良好になるようにFMアンテナケーブルを十分に伸ばして壁に貼り付けるなどしてください。 • 受信が良好になるようにAMループアンテナの位置や方向を変えてください（➞10ページ）。 • FM屋外アンテナやAM屋外アンテナ、または室内アンテナを接続してください。 • 雑音を生じさせる機器の電源を切るか、本機やアンテナから遠ざけてください。
センター、サラウンド、サラウンドバックまたはフロントハイトスピーカーから音が出ない。	• 入力信号やリスニングモードによっては、一部のスピーカーから音が出ないことがあります。**ADV SURR**ボタンを繰り返し押して、**EXT.STEREO**モードを選んでみてください。 • スピーカーが正しく接続されているか確認してください（➞7ページ）。 • 「スピーカーの設定を行う」（➞20ページ）をもう一度確認してください。 • 「スピーカー出力レベルを設定する」（➞21ページ）でスピーカーの出力レベルをもう一度確認してください。
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーを正しく接続して、電源を入れてください。 • サブウーファーに音量調整機能があれば、ボリュームを上げてください。 • 再生しているドルビーデジタルやDTS信号の中に低音域のLFEチャンネルが含まれていないと、サブウーファーから音が出ないことがあります。 • 「スピーカーの設定を行う」（➞20ページ）でサブウーファーをYESまたはPLUSに設定してください。 • 「LFEATT（LFEアッテネーター）」（➞19ページ）を0dBまたは−5dBにしてください。
特定のスピーカーの音が小さい。	• スピーカーの自動設定を行ってください（➞12ページ）。 • ホームメニュー設定でスピーカー出力レベルを設定してください（➞21ページ）。
低音が出ない、音声がひずむ。	• パイオニア製のスピーカー S-SL100-LR/S-SL100CRやHVTスピーカー（S-HV500-LRなど）を接続しているときは、本機のクロスオーバー周波数を200 Hzに設定してください（➞21ページ）。
カセットデッキを再生すると雑音が出る。	• 雑音が消えるまで、カセットデッキを本機から離してください。
リモコンで操作できない。	• リモコンが他機器の操作モードになっている可能性があります。AVアンプを押してリモコンを本機の操作モードに切り換えてから操作してみてください（➞13ページ）。 • 電池を交換してください（➞3ページ）。 • フロントパネルのリモコン受光部から7 m、左右30°の範囲で操作してください（➞3ページ）。 • 障害物を取り除くか、別の場所に移動させてください。 • リモコン信号受光部に強い光が当たらないようにしてください。
ディスプレイの表示が暗い、または表示されない。	• リモコンの**ディマー**ボタンを押して、表示部の明るさを選択してください。 • エコモードを選んでいる場合は、ディスプレイの表示が暗くなります。他のリスニングモードを選ぶと、元の明るさに戻ります。

症状	改善策
ディスプレイに勝手にさまざまな文字が表示される。	• デモ表示がオンになっています。デモを表示させたくない場合は、デモ表示をオフにしてください(→22ページ)。
何らかの操作のあと、ディスプレイ表示が点滅する。	• 操作禁止を意味します。入力信号やリスニングモードによっては選択できない機能があります。
ADAPTER PORT	
*Bluetooth*機能搭載機器と接続できない、操作できない、音が出ない、音がとぎれる。	• 2.4 GHz帯の電磁波を発する機器(電子レンジ、無線LAN機器、他の*Bluetooth*機能搭載機器など)が近くにありませんか？これらの機器から本機を離して設置するか、電磁波を発する他の機器の使用をおやめください。 • *Bluetooth*機能搭載機器と本機が離れすぎていたり、間に障害物がありませんか？同じ部屋で障害物のない、見通し距離10 m以内に設置してください。 • BLUETOOTHアダプターは本機のADAPTER PORT端子に正しく接続されていますか？接続を確認してください(→10ページ)。 • *Bluetooth*機能搭載機器が*Bluetooth*無線通信できる状態になっていますか？ *Bluetooth*機能搭載機器の設定を確認してください(→14ページ)。 • ペアリングが正しく行われていなかったり、本機か*Bluetooth*機能搭載機器側のどちらかでペアリングの設定を消去しませんでしたか？再度ペアリングの操作を行ってください(→14ページ)。 • 接続したい機器はプロファイルに対応していますか？ A2DPおよびAVRCPに対応した*Bluetooth*機能搭載機器を使用してください。
HDMI	
映像と音声の両方が出ない。	• ソース機器の仕様によっては本機を通してのHDMI接続ができない場合があります。ソース機器の仕様を確認し、非対応のときはソース機器と本機をビデオケーブル(黄)で接続してください。 • 本機はHDCPに対応しています。ご使用の機器がHDCP対応かどうかをご確認ください。HDCP非対応のときはビデオケーブル(黄)で接続してください。
映像が出ない。	• アナログのビデオケーブル(黄)で入力した映像信号はHDMI端子からは出力されません。また、HDMIで入力した映像信号はアナログ端子から出力されません(→8ページ)。 • ソース機器の設定によっては映像が表示されないビデオフォーマットが出力されることがあります。ソース機器の設定を変更するか、ビデオケーブル(黄)で接続してください。 • ソース機器の映像が影響している可能性があります。ソース機器の解像度設定やDeep Colorの設定などを調整してください。 • 映像信号がDeep Colorのとき、HDMIケーブルがDeep Colorに対応していないと映像が出ません。ハイスピードHDMIケーブルを使ってください。
ホームメニュー画面がテレビに表示されない。	• テレビとHDMIケーブルのみで接続した場合は、ホームメニュー画面(OSD画面)がテレビに表示されません。ビデオケーブル(黄)で接続し、テレビの入力をこれらの接続に合わせてください。(→8ページ)

症状	改善策
音声が出ない、またはとぎれる。	• DVI機器と接続しているときは、音声が出ません。別途音声の接続を行ってください。 • オーディオ調整機能のHDMI設定がTHROUGHになっている場合は、本機から音は出ません。AMPに設定してください(→19ページ)。 • HDMIによるデジタル音声伝送は、従来のデジタル音声伝送(光または同軸)に比べ、フォーマットの認識に時間がかかります。このため、音声フォーマットの切り換わりや再生スタート時に、音声がとぎれる場合があります。 • 再生中に、本機のHDMI OUTに接続している機器の電源をオン／オフしたり、HDMIケーブルを抜き差しすると、音声がとぎれたりノイズが発生する場合があります。
HDMIによるコントロール機能でシアターモードが動作しない。	• HDMIによるコントロール機能をONにしてください(→23ページ)。 • テレビの電源をONにしてから本機の電源をONにしてください(→23ページ)。 • テレビ側のHDMIによるコントロール機能をONにしてください。 • エコモードがオンのときは、HDMIによるコントロール機能は動作しません(→17ページ)。 • エコモードをふたたびオフにしても、HDMIによるコントロール機能が動作しないことがあります。この場合は、「連動動作を開始する前に動作確認する」(→23ページ)をご覧になり、動作確認を行ってください。
HDMIで接続したテレビの音声が本機で聞こえない。	• テレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応している場合：HDMI設定のARCをONにして、**TV**入力に切り換えてください(→23ページ)。 • テレビがオーディオリターンチャンネル(ARC)に対応していない場合：HDMI経由でテレビの音声を聴くことはできません。別途オーディオケーブルの接続を行ってください(→9ページ)。

HDMI接続に関するご注意

本機を経由してソース機器(DVDプレーヤーやビデオデッキ、セットトップボックスなど)とテレビ(モニター)をHDMIケーブルを使って接続すると、映像や音声が出力されないことがあります(ソース機器の仕様により、AVアンプを経由してテレビに映像や音声を出力できないことがあります)。このようなときは、接続しているソース機器のメーカーにお問い合わせください。

AVアンプを経由してテレビに映像や音声を出力できないソース機器をそのままお使いになるときは、下記の接続例の方法に変更すると映像や音声を出力できます。

接続例

ソース機器とテレビをHDMIケーブルで直接接続してください。

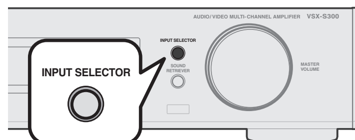
本機とソース機器を､音声ケーブルを使って接続してください。このときテレビの音量は最小にしてください。

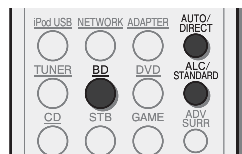
お知らせ

ソース機器によっては、デジタル音声出力が2チャンネル音声しか出力されないことがあります(これは、ソース機器がテレビの音声チャンネル数に合わせるためです)。
ソース機器を切り換えるときは、本機とテレビの入力を両方切り換えてください。
HDMI端子に入力される映像をテレビで見るときは、テレビの入力をHDMIに切り換えます。このときテレビの音量は最小に調整してください。

本機を初期化する

以下の手順で、本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。





1. 本機の電源をオフ(スタンバイ状態)にする。
2. フロントパネルのINPUT SELECTORボタンを５秒以上押しながら、リモコンのBDボタンを押す。
3. 表示部にRESET?と表示されたら、リモコンのAUTO/DIRECTボタンを押す。
   表示部にOK?と表示されます。
4. リモコンのALC/STANDARDボタンを押す。
   表示部にOKと表示され、本機が工場出荷時の状態に初期化されたことを示します。

お知らせ

HDMIによるコントロール機能がONに設定されていると、本機の初期化ができない場合があります。その場合は、HDMIによるコントロール機能をOFFにするか、すべての接続機器の電源を切ってから本機の電源をオフ(スタンバイ)にし、HDMIインジケーターが消灯するのを待ってから初期化してください。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
オーディオ調整機能		
MIDNIGHT（ミッドナイト）	MID/LDN OFF	18
LOUDNESS（ラウドネス）		
BASS（低音）	0	
TREBLE（高音）	0	
CH LEV（チャンネルレベル）	0	
SB CH（サラウンドバックチャンネル処理）	ON	
PHASE CTRL（フェイズコントロール）	ON	
EQ（アコースティックキャリブレーションEQ）	ON	
SOUND DELAY（サウンドディレイ）	0.0フレーム	
SOUND RTRV（サウンドレトリバー）	OFF（ADAPTER入力はON）	
DUAL（デュアルモノラル）	CH1	
FIXED PCM（PCMフィックス）	OFF	
DRC（ダイナミックレンジコントロール）	AUTO	19
LFEATT（LFEアッテネーター）	0dB	
SACD GAIN（SACDゲイン）	0 (dB)	
HDMI（HDMI音声）	AMP	
AUTO DELAY（オートディレイ）	OFF	
CENTER WIDTH（センター幅）	3	
DIMENSION（ディメンション）	0	
PANORAMA（パノラマ）	OFF	
CENTER IMAGE（センターイメージ）	3（NEO:6 MUSIC）/ 10（NEO:6 CINEMA）	
HEIGHT GAIN（ハイトゲイン）	MID	

設定項目	初期値	参照ページ
ホームメニュー設定		
Speaker System（スピーカーシステムの設定）	Normal	20
Speaker Setting（スピーカーの設定）	Front: SMALL（小）	
	Center: SMALL（小）	
	Front Height: NO（無し）	
	Surr: SMALL（小）	
	Surr. Back: NO（無し）	
	Subwoofer:YES（有り）	
X.OVER（クロスオーバー周波数）	100 Hz	21
Channel Level（スピーカー出力レベル）	0 dB（補正無し）	
Speaker Distance（スピーカーまでの距離）	すべて3.0 m	
Pre Out Setting（プリアウト端子の設定）	Surr.Back	22
Input Assign [Composite Input]（コンポジットビデオ入力端子の設定）	ANALOG AUX	
Auto Power Down（自動電源オフの設定）	OFF	
FL Demo Mode（デモ表示の設定）	ON	
HDMIによるコントロール機能		
Control	ON	23
ARC（オーディオリターンチャンネル）	OFF	
その他		
入力ファンクション	BD/BDR	13
リスニングモード	AUTO SURR	16
ディスプレイの明るさ	一番明るい	4

各部の名称
接続
基本設定
再生
応用設定
困ったとき
付録

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の保有期間

当社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

所在地、電話番号は裏表紙の「ご相談窓口のご案内・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に25 ～ 26ページの「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも正常に動作しないときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い求めの販売店または裏表紙に記載の修理受付窓口にご依頼ください。

ご連絡いただきたい内容

- ご住所
- お名前
- お電話番号
- 製品名：AVマルチチャンネルアンプ
- 型番：VSX-S300
- お買い上げ日
- 故障の状況（できるだけ具体的に）
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物、公園など）

保証期間中は

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

本製品は家庭用オーディオ機器（オーディオ・ビデオ機器）です。下記の注意事項を守ってご使用ください。

1. 一般家庭用以外での使用（例：店舗などにおけるBGMを目的とした長時間使用、車両・船舶への搭載、屋外での使用など）はしないでください。
2. 音楽信号の再生を目的として設計されていますので、測定器の信号（連続波）などの増幅用には使用しないでください。
3. ハウリングで製品が故障する恐れがありますので、マイクロフォンを接続する場合はマイクロフォンをスピーカーに向けたり、音が歪むような大音量では使用しないでください。
4. スピーカーの許容入力を超えるような大音量で再生しないでください。

S026_A1_Ja

愛情点検



長年ご使用のAV機器の点検を!

このような症状はありませんか	・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。 ・電源コードにさけめやひび割れがある。 ・電源が入ったり切れたりする。 ・本体から異常な音、熱、臭いがする。		ご使用中止	故障や事故防止のため、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

K026*_A1_Ja

サービス拠点のご案内

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

サービス拠点への電話は、修理受付窓口でお受けします。（沖縄県の方は沖縄サービス認定店）
また、認定店は不在の場合もございますので、持ち込みをご希望のお客様は修理受付窓口にご確認ください。

●北海道地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆ 北海道サービスセンター	FAX	011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北2条西20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX	0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町1条1丁目438-89
帯広サービス認定店	FAX	0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西5条南28丁目1-1
函館サービス認定店	FAX	0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町2-18-7

●東北地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆ 東北サービスセンター	FAX	022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈6-10-26
山形サービス認定店	FAX	023-615-1627	〒990-0023	山形市松波1-8-17
郡山サービス認定店	FAX	024-991-7466	〒963-8861	郡山市鶴見坦1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第2ビル1F D号
盛岡サービス認定店	FAX	019-656-7648	〒020-0051	盛岡市下太田下川原153-1
青森サービス認定店	FAX	017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田2-16-10
八戸サービス認定店	FAX	0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野3-16-8
秋田サービス認定店	FAX	018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目345-1

●東京都内

受付　月～土　9:30～18:00（日・祝・弊社休業日は除く）

世田谷サービスステーション	FAX	03-5357-0770	〒156-0055	世田谷区船橋5-28-6　吉崎ビル1F
北東京サービスステーション	FAX	03-3944-7800	〒170-0002	豊島区巣鴨1-9-4　第三久保ビル1F
多摩サービスステーション	FAX	042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町4-18-1　エクセル立川1F

●関東・甲信越地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆千葉サービスステーション	FAX	047-773-9354	〒275-0016	習志野市津田沼3-20-22
☆北関東サービスセンター	FAX	048-651-8030	〒331-0812	さいたま市北区宮原町1-310-1
水戸サービス認定店	FAX	029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町307-4
宇都宮サービス認定店	FAX	028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町3373-21
群馬サービス認定店	FAX	0270-22-1859	〒372-0801	伊勢崎市宮子町1191-17　パサージュ808伊勢崎101号
新潟サービス認定店	FAX	025-374-5756	〒950-0982	新潟市中央区堀之内南1-20-11
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX	0259-63-3400	〒952-1209	佐渡市金井町千種1158-1
☆南関東サービスセンター	FAX	045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜サービス認定店	FAX	045-348-8661	〒240-0043	横浜市保土ヶ谷区坂本町250
神奈川西サービス認定店	FAX	046-231-1209	〒243-0422	海老名市中新田4-10-53　中山ビル1F
三宅島サービス指定店　勝見電機	FAX	04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービス認定店	FAX	0263-48-0575	〒390-0852	松本市大字島立180-5　パイオニア松本拠点1F
長野サービス認定店	FAX	026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所1-24
甲府サービス認定店	FAX	055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田4-9-14

●中部地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中部サービスセンター	FAX	052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切2-8-18
岡崎サービス認定店	FAX	0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジB-1
津サービス認定店	FAX	059-213-6712	〒514-0821	津市垂水522-5
岐阜サービス認定店	FAX	058-274-5256	〒500-8384	岐阜市薮田南4-2-10
静岡サービス認定店	FAX	054-236-4063	〒422-8034	静岡市駿河区高松1-17-17
沼津サービス認定店	FAX	055-967-8455	〒410-0876	沼津市北今沢12-7
浜松サービス認定店	FAX	053-422-1401	〒430-0912	浜松市中区茄子町355-1
金沢サービス認定店	FAX	076-240-0550	〒920-0362	金沢市古府3-60-1　K2ビル1F
富山サービス認定店	FAX	076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町1-7-1
福井サービス認定店	FAX	0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺3-5-9

●関西地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆関西サービスセンター	FAX	06-6310-9120	〒564-0052	吹田市広芝町5-8
神戸サービス認定店	FAX	078-265-0832	〒651-0093	神戸市中央区二宮町1丁目10-1　ローレル三宮ノースアベニュー1F
姫路サービス認定店	FAX	0792-51-2656	〒671-0224	姫路市別所町佐土1-126
和歌山サービス認定店	FAX	0734-46-3026	〒641-0014	和歌山市毛見1126-4
京都サービス認定店	FAX	075-644-7975	〒601-8444	京都市南区西九条森本町4　イッツアイランド1F
奈良サービス認定店	FAX	0742-50-0889	〒630-8141	奈良市南京終町1-174-2
福知山サービス認定店	FAX	0773-24-5375	〒620-0055	福知山市篠尾新町2-74　カマハチマンション

●中国・四国地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆中四国サービスセンター	FAX	082-534-5859	〒733-0003	広島市西区三篠町2-4-22 NKビル1F
岡山サービス認定店	FAX	086-250-2724	〒700-0975	岡山市北区今3-10-10　備前ビル1F
松江サービス認定店	FAX	0852-22-7779	〒690-0017	松江市西津田4-5-40　（有）テクピット内
福山サービス認定店	FAX	0849-31-2791	〒720-0815	福山市野上町3-12-9
鳥取サービス認定店	FAX	0857-28-8011	〒680-0934	鳥取市徳尾422-2
徳山サービス認定店	FAX	0834-33-5759	〒745-0006	周南市花畠町3-11　森広事務所1F
高松サービス認定店	FAX	087-813-6112	〒760-0080	高松市木太町862-1
徳島サービス認定店	FAX	088-669-6076	〒770-8023	徳島市勝占町中須92-1　大松ジョリカ地下1階107号
高知サービス認定店	FAX	088-802-3321	〒780-0051	高知市愛宕町3-12-13　晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX	089-911-5608	〒791-8013	松山市山越5-12-8

●九州地区

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）
☆拠点は、土曜も受付　9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

☆九州サービスセンター	FAX	092-412-7460	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南2-1-9　ヤマエ博多駅南ビル1F
北九州サービス認定店	FAX	093-941-8354	〒802-0044	北九州市小倉北区熊本1丁目9-4　植田ビル1F
博多サービス認定店	FAX	092-461-1643	〒812-0006	福岡市博多区上牟田2-6-7
西九州サービス認定店	FAX	0952-20-1991	〒840-0201	佐賀市大和町大字尼寺2688-1
長崎サービス認定店	FAX	095-849-4606	〒852-8145	長崎市昭和1丁目12-10　クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX	096-331-3323	〒861-2118	熊本市花立4-9-31
大分サービス認定店	FAX	097-551-2049	〒870-0921	大分市萩原3-23-15　日商ビル101
宮崎サービス認定店	FAX	0985-27-3136	〒880-0821	宮崎市浮城町98-1
鹿児島サービス認定店	FAX	099-201-3803	〒890-0046	鹿児島市西田3-8-24　サニーサイド21 1F

●沖縄県

受付　月～金　9:30～18:00（土・日・祝・弊社休業日は除く）

沖縄サービス認定店	TEL	098-987-1120	〒902-0073	那覇市上間413　琉電アパート1-5
	FAX	098-987-1121		

平成23年4月現在　　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

安全上のご注意

● 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。

● ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の方々への危害や財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。

図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⃠記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。

図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。

図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

⚠警告

異常時の処置



・万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



・万一、内部に水や異物等が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



・万一、本機を落としたり、カバーを破損した場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

設置



・電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



・電源コードの上に重いものを載せたり、コードが本機の下敷きになったりしないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うと、気づかずに重いものを載せてしまうことがあります。重いものを載せるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。



・放熱をよくするため、他の機器や壁等から間隔をとり、ラックに入れる場合はすき間をあけてください。また、次のような使い方で通風孔をふさがないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

→あおむけや横倒し、逆さまにする。

→押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。

→じゅうたんやふとんの上に置く。

→テーブルクロスなどをかける。



・付属の電源コードはこの機器のみで使用することを目的とした専用部品です。他の電気製品ではご使用になれません。他の電気製品で使用した場合、発熱により火災・感電の原因となることがあります。また電源コードは本製品に付属のもの以外は使用しないでください。他の電源コードを使用した場合、この機器の本来の性能が出ないことや、電流容量不足による発熱から火災・感電の原因となることがあります。



・本機の上に火がついたろうそくなどの裸火を置かないでください。火災の原因となります。

使用環境



・この機器に水が入ったり、ぬれたりしないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。



・風呂場、シャワー室等では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



・表示された電源電圧(交流100ボルト 50 Hz/60 Hz)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



・この機器を使用できるのは日本国内のみです。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。

使用方法



・本機の上に花びん、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



・ぬれた手で(電源)プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。



・本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。



・本機のカバーを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。



・電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、販売店に交換をご依頼ください。



・雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

⚠注意

設置


• 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。


• 電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。


• ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。


• 本機を調理台や加湿器のそばなど油煙、湿気あるいはほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。


• テレビ、オーディオ機器、スピーカー等に機器を接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。


• 本機の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。


• 本機の上にテレビを置かないでください。放熱や通風が妨げられて、火災や故障の原因となることがあります。(取扱説明書でテレビの設置を認めている機器は除きます。)

異常時の処置


• 電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。


• 電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。


• 移動させる場合は、電源スイッチを切り必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから、行ってください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。


• 本機の上にテレビやオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。重い場合は、持ち運びは2人以上で行ってください。


• 窓を閉め切った自動車の中や直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。

使用方法


• 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。


• 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。


• 旅行などで長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

電池


• 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。


• 電池を機器内に挿入する場合、極性表示(プラス(+)マイナス(－)の向き)に注意し、表示どおりに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。


• 長時間使用しない時は、電池を取り出しておいてください。電池から液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また万一、漏れた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。


• 電池は加熱したり分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となることがあります。

保守・点検


• 5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。


• お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

本機の使用環境について
本機の使用環境温度範囲は5 ℃～35 ℃、使用環境湿度は85 %以下(通風孔が妨げられていないこと)です。
風通しの悪い所や湿度が高すぎる場所、直射日光(または人工の強い光)の当たる場所に設置しないでください。 D3-4-2-1-7c_A1_Ja

使用上のご注意

電源コードについての注意

電源コードは電源プラグ部を持って取り扱ってください。ショートや感電の原因となるため、コードを引っ張ってプラグを抜いたり、濡れた手で電源コードに触れたりしないでください。電源コードを傷つけないため、本機や家具の下敷きにならないようにしてください。電源コードは結び目を作ったり、他のコードと一緒に結んだりしないでください。

電源コードは、踏みつけられないように配線してください。破損したコードは火災や感電を引き起こします。電源コードに破損がないかを定期的に確認してください。

もし破損していたら、お買い上げの販売店へ交換を依頼してください。

本機のお手入れについて

• 磨き布や乾いた布で、表面のほこりや汚れを拭き取ってください。
• 表面が汚れているときは、中性洗剤を水で5 ～ 6 倍に薄めたものに柔らかい布を浸してよく絞って、汚れを拭き取り、乾燥した布でから拭きします。家具用のワックスや洗剤は使用しないでください。
• 製品の表面がさびることがありますので、シンナー、ベンジン、殺虫剤などを製品にかけたり、製品の近くで使用しないでください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

技術資料

デジタル音声フォーマットについて

DVDやブルーレイディスクソフトのパッケージには以下のような表示がされていることがあります。
1枚のディスクに複数の音声が収録されている場合が多く、どの音声を聴くかを選択することができます。
（音声の選択方法はお手持ちのプレーヤーやディスクによって異なります。）





1.英　語（5.1chサラウンド）
2.日本語（ドルビーサラウンド）
3.英　語（DTS 5.1chサラウンド）



収録音声数　　録音方式　　音声記録方式

ドルビーデジタルはDVDの標準音声フォーマットであるため、単に「5.1chサラウンド」と記載されている場合は、「ドルビーデジタル（5.1ch）」であることを示します。

デコードとは　デジタル信号処理回路などにより、圧縮記録されたデジタル信号を、もとの信号に変換させる技術です。また、2chの音源をマルチch化させる演算技術をマトリックス･デコードと言い、5.1ch信号を6.1chに伸長させる技術もデコードと呼ぶことがあります。

ドルビー



高音質 ↑

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HDコンテンツ	＊Dolby TrueHD ＊Dolby Digital Plus	ディスクリート	高精細音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDolby TrueHDは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバックchフラグ付）	Dolby Digital Surround EX	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバックchを使用して、Dolby Digitalよりも臨場感を高めた方式
5.1chディスクリート	Dolby Digital	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
一般的な2ch ドルビーサラウンド	(Dolby Surround) Dolby ProLogic (IIx/IIz)	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

＊これらの音声は8チャンネル以上のチャンネル数をサポートしていますが、現在ブルーレイディスクおよびHD DVDのそれぞれの規格では、最大音声チャンネル数が8チャンネルに制限されています。

詳細な情報はドルビーラボラトリーズのホームページをご覧ください。
http://www.dolby.co.jp/

プロロジックIIx製品は、プロロジックIIxの持つさまざまな機能を、選択して搭載することが可能です。プロロジックIIx搭載、とキャッチフレーズされた商品でも、必ずしもまったく同じ機能を持っているとは限らないことにご注意ください。

DTS



高音質 ↑

入力信号	サラウンドの名称	デコード方式	特徴
HDコンテンツ	· DTS-HD Master Audio · DTS-HD High Resolution Audio	ディスクリート	高精細音声技術。HDMIケーブルで伝送可能。特にDTS-HD Master Audioは、ロスレス符号化技術により最高音質を実現。
5.1ch（サラウンドバックchフラグ付）	· DTS-ES (Matrix/Discrete)	ディスクリート＋マトリックス	サラウンドバックchを使用して、臨場感を高めた方式
5.1chディスクリート	· DTS (Surround) · DTS 96/24	ディスクリート	DVD以降の代表的フォーマット
一般的な2 ch DTSサラウンド	· Neo:6	マトリックス	すべてのステレオ信号に対応する万能なサラウンド技術

詳細な情報はDTSのホームページをご覧ください。
http://www.dtsjapan.co.jp/

MPEG-2 AAC



MPEG-2オーディオの標準方式の1つで、BSデジタルや地上デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。高圧縮率ながら高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。

■米国におけるパテントナンバー

08/937,950	5,297,236	5,481,614	5,490,170
5,848,391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

HDMIについて



HDMI(High-Definition Multimedia Interface)とは1本のケーブルで映像と音声を受信するデジタル伝送規格です。ディスプレイ接続技術のDVI(Digital Visual Interface)を家庭向けのオーディオ機器用にアレンジしたものであり、高い帯域幅のデジタル内容保護(HDCP)を実現した次世代テレビ向けのインターフェース規格です。

本機では、HDMI対応機器とHDMI対応テレビなどを接続することで、圧縮されていないデジタル映像と音声(ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、またはリニアPCM)を1本のケーブルで伝送できます。ドルビーTrueHDやDTS-HD Master Audioなどのロスレスデジタル音声フォーマットにも対応しています。

本機はHDMI機器との接続を目的として設計されています。DVI機器に接続した場合、DVI機器によっては正常に動作しない場合があります。

本機は高画質規格のDeep Color出力やx.v.Colorの伝送も可能です。

"x.v.Color" および **x.v.Color** は、ソニー株式会社の商標です。
HDMI、HDMI ロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の米国とその他の国における商標または登録商標です。

入力端子の対応フォーマット

各入力端子で対応している音声フォーマットは以下のとおりです。

入力端子	対応音声フォーマット
デジタル(光/同軸)	Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC、PCM（サンプリング周波数: 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz）
HDMI	Dolby Digital、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS、DTS-EXPRESS、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、MPEG-2 AAC、2chから最大8chまでのリニアPCMデジタル信号(サンプリング周波数: 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz)、SACD（DSD 2 ch信号)、ビデオCD、スーパービデオCD、DVDオーディオ(192 kHz含む)

仕様

オーディオ部		
実用最大出力 (JEITA、10 %、4 Ω、1 ch駆動時)	フロント	120 W/CH（1 kHz）
	センター	120 W（1 kHz）
	サラウンド	120 W/CH（1 kHz）
	サブウーファー	120 W（30 Hz）
定格出力 （20 Hz ～ 20 kHz、0.5 %、8 Ω、1 ch駆動時）	フロント	65 W/CH
	センター	65 W
	サラウンド	65 W/CH
	サブウーファー	65 W
全高調波歪(20 Hz～20 kHz、50 W、8 Ω、1 ch駆動時)		0.06 %
保証インピーダンス		4 Ω ～ 16 Ω
入力端子(感度／インピーダンス)		200 mV/47 kΩ
SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)		90 dB
ビデオ部		
信号レベル	コンポジット	1 Vp-p（75 Ω）
チューナー部		
FM	チューナー帯域	76.0 MHz ～ 90.0 MHz
	アンテナ	75 Ω不均衡型
AM	チューナー帯域	522 kHz ～ 1629 kHz
	アンテナ	ループアンテナ
デジタル入出力部		
HDMI端子		19ピン（5 V、100 mA）
電源部・その他		
電源		AC 100 V、50 Hz/60 Hz
消費電力		70 W
待機時消費電力(スタンバイ状態)		0.5 W (コントロール機能 ON)/ 0.45 W (コントロール機能 OFF)
外形寸法(幅 x 高さ x 奥行)		435 mm x 85 mm x 317 mm
質量(本体のみ)		4.2 kg

付属品

セットアップ用マイク.. 1
リモコン.. 1
単4形乾電池(動作確認用)................................... 2
AMループアンテナ... 1
FMアンテナ... 1
電源コード
保証書
取扱説明書（本書）

お知らせ

- 仕様と外観は改良のため予告なく変更することがあります。
- iPodは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

さくいん

＜各窓口へのお問い合わせの時のご注意＞
「0120」で始まる フリーコールおよび フリーコールは、携帯電話・PHSなどからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■家庭用オーディオ/ビジュアル商品　フリーコール 0120−944−222　一般電話　044−572−8102

■ファックス　044−572−8103

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/
※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内 ※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合

修理受付窓口

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　フリーコール 0120−5−81028（ゴーパイオニア）　一般電話　044−572−8100

■ファックス　フリーコール 0120−5−81029

■インターネットホームページ　http://pioneer.jp/support/repair/
※家庭用オーディオ/ビジュアル商品はインターネットによる修理のお申し込みを受付けております

沖縄サービス認定店（沖縄県のみ）

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■一般電話　098−987−1120

■ファックス　098−987−1121

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品、リモコン、取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間　月曜～金曜9:30～18:00、土曜9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■電話　フリーコール 0120−5−81095　一般電話　044−572−8107

■ファックス　フリーコール 0120−5−81096

平成23年4月現在　記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。　VOL.044

パイオニア株式会社　〒212-0031 神奈川県川崎市幸区新小倉1番1号

<5707-00000-567-0S>